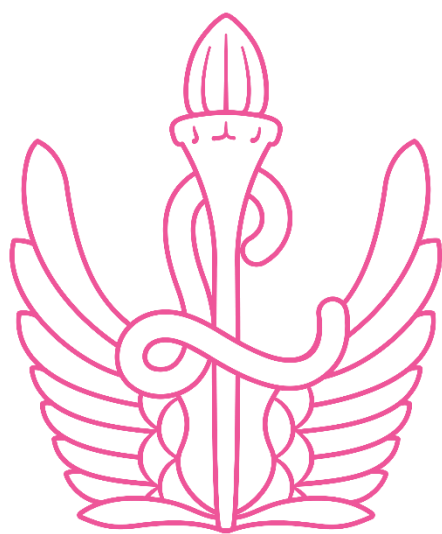


研究白書

2024

集計対象期間：2016 年度～2023 年度



2025 年 3 月 11 日

東京外国語大学

目次

はじめに	5
第1章 研究者	7
1－1 研究者数（本務者）の推移	7
1－2 教員の内訳（2024年5月1日現在）	8
1－3 本務教員に占める40歳未満教員の割合の推移	10
1－4 女性教員比率の推移	11
第2章 研究予算	13
2－1 セグメント別 研究経費の推移	13
2－2 国立大学の財務分析比率（研究分野）	14
第3章 外部資金	17
3－1 科研費	17
3－1－1 受入金額	17
3－1－2 受入件数	20
3－1－3 採択率	27
3－1－4 科研費保有数	28
3－1－5 2023年度 実施課題一覧	29
3－2 受託研究・共同研究・受託事業	40
3－2－1 受託研究	40
3－2－2 共同研究	42
3－2－3 受託事業	44
3－3 寄附金	45
第4章 研究業績一覧	46
4－1 研究業績数の推移	46
4－2 大学院総合国際学研究院	47
4－2－1 査読論文等	47
4－2－2 書籍	50

4－3	大学院国際日本学研究院	52
4－3－1	査読論文等	52
4－3－2	書籍	54
4－4	世界言語社会教育センター	55
4－4－1	査読論文等	55
4－4－2	書籍	57
4－5	アジア・アフリカ言語文化研究所	58
4－5－1	査読論文等	58
4－5－2	書籍	60

留意事項

- ・基本的には 2023 年度までの数値を使用しておりますが、一部注釈付きのものは 2024 年 5 月 1 日現在の数値を使用しております。

はじめに

2022 年度から第 4 期中期目標・中期計画期間が始まりました。本学は第 4 期中期計画として「(18) 透明性の高い法人運営の実現」「(21) 自律的な点検・評価」「(22) ステークホルダーとの対話」を定めています。

これらの中期計画の達成に向けて、本学では 2022 年度より研究白書を作成し公表しております。研究白書の特徴は、①研究に関するデータを集約化したこと、②可能な限り情報をグラフ化したこと、③研究課題・研究業績を一覧化したことにあります。

これにより期待できる効果は以下のとおりです。

① 研究に関するデータを集約化したことによる効果

研究に関するデータは、2022 年度以前から本学ウェブサイト等で公開しておりましたが、様々な情報が異なる場所に点在していたことに加え、年度ごとの数値の推移などを把握することが困難でした。こうした点を踏まえ、研究白書では、研究に関するデータを集約したことで、関連データをまとめて確認することや経年変化を見ることが容易になりました。

② データをグラフ化したことによる効果

データを可能な限りグラフ化したことにより、情報を視覚的にわかりやすく簡単に把握することが可能になりました。なお、第 3 期中期目標期間の開始年度（2016 年度）からの情報を掲載することで、経年による変化が確認できるようになったことに加え、他大学等のデータも取り入れることで、本学と他大学等との比較を行うことが可能となっております。

③ 研究課題・研究業績を一覧化したことによる効果

研究課題・研究業績を一覧化したことにより、各研究者が行っている具体的な研究内容が見える化しました。このことが、学内的には研究者間の連携や交流の活発化につながり、学外的には本学における研究活動を広く知ってもらうことのきっかけになると考えております。

本白書の作成を通じて、研究に関するデータの可視化を行い、「自律的な点検・評価」により研究活動の改善やさらなる発展に結び付けていくとともに、本白書の公表により「透明性の高い法人運営」と「ステークホルダーとの対話」につなげていく所存です。

2016 年度以降の研究組織改革

- 2017 年度 現代アフリカ地域研究センター（ASC-TUFS）発足
- 2022 年度 学際研究共創センター（TReND センター）発足
TUFS フィールドサイエンスコモンズ（TUFiSCo）発足
- 2023 年度 TUFS 地域研究センター（TASC）発足

（参考）教育研究組織

2024 年 5 月 1 日時点

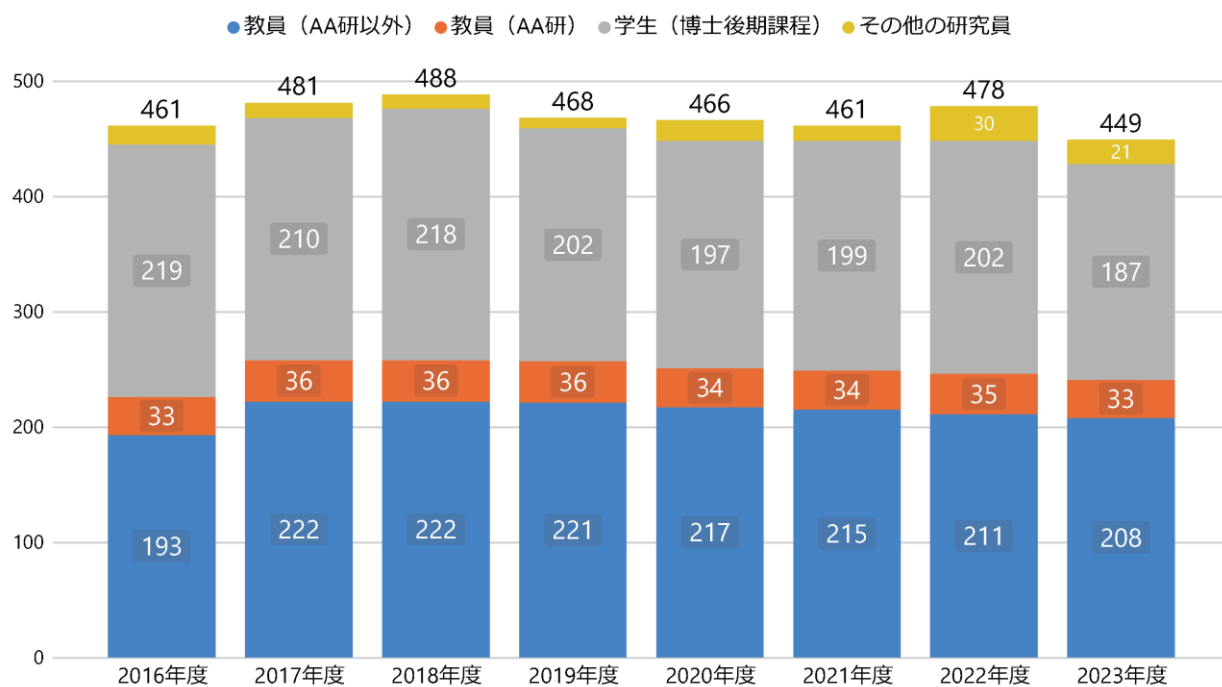
学部教育組織	言語文化学部 School of Language and Culture Studies
	国際社会学部 School of International and Area Studies
	国際日本学部 School of Japan Studies
大学院教育組織	総合国際学研究科 Graduate School of Global Studies
	博士前期課程 Master's Programs
	世界言語社会専攻 Global Studies Program
	国際日本専攻 Japan Studies Program
	博士後期課程 Doctoral Programs
予備教育組織	留学生日本語教育センター Japanese Language Center for International Students
	大学院総合国際学研究院 Institute of Global Studies
	大学院国際日本学研究院 Institute of Japan Studies
教員組織	世界言語社会教育センター World Language and Society Education Center
	アジア・アフリカ言語文化研究所 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa
	情報資源利用研究センター Information Resources Center
大学附置組織	フィールドサイエンス研究企画センター Field Science Center
	附属図書館 Library
学内共同利用組織	保健管理センター Health Care Center
	総合情報コラボレーションセンター Information Collaboration Center
	多言語多文化共生センター Center for Intercultural Studies
	ハラスメント相談室 Harassment Consultation Office
学内研究組織	語学研究所 Institute of Language Research
	総合文化研究所 Institute of Transcultural Studies
	海外事情研究所 Institute for Global Area Studies

学内研究組織	国際関係研究所 Institute of International Relations
	国際日本研究センター International Center for Japanese Studies
	現代アフリカ地域研究センター African Studies Center
	南アジア研究センター South Asia Studies Center
	TUFS 地域研究センター TUFS Area Studies Center
教育支援組織	TUFS フィールドサイエンスコモンズ TUFS Field Science Commons
	ワールド・ランゲージ・センター World Language Center
	LINGUA テストセンター LINGUA Test Center
	英語学習支援センター English Learning Center
	CEFR-J 推進室 CEFR-J Office
	教育情報化支援センター Multimedia and Computer-Aided Education Support Center
	教育情報化支援室 Educational Information Support Office
	オンライン教育支援室 Online Learning Support Team
	留学支援共同利用センター TUFS Student Mobility Center
	アカデミック・サポート・センター TUFS Academic Support Center
研究支援組織	国際メディア情報センター TUFS Media Center
	国際教育支援室 International Education Support Office
	学際研究共創センター Center for Transdisciplinary Research, Networking and Dialogue
学生支援組織	グローバル・キャリア・センター Global Career Center
	ボランティア活動スペース Volunteer Action Space
	学生相談室 Student Counseling Room
社会連携等組織	TUFS オープンアカデミー TUFS Open Academy
	大学図書館 TUFS Archives
	東京外国語大学出版会 TUFS Press
	オンライン日本語教育センター Online Japanese Education Center

第1章 研究者

1-1 研究者数（本務者）の推移

単位：名



※注：「AA 研」はアジア・アフリカ言語文化研究所を指す（以下「AA 研」）

総務省「科学技術研究調査」2016 年度～2023 年度の本学回答分をもとに作成

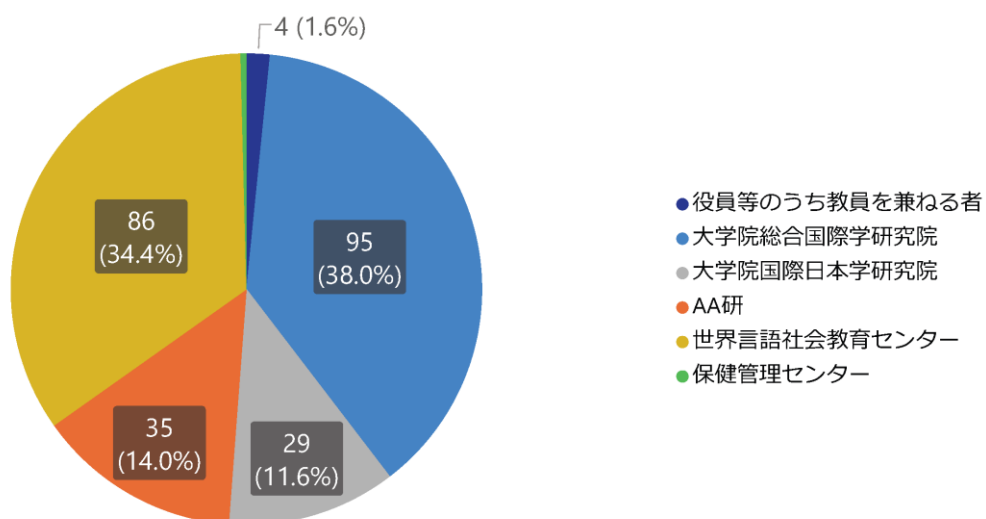
単位：名

項目名	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
▲ 教員（AA研以外）	193	222	222	221	217	215	211	208
教員（AA研）	33	36	36	36	34	34	35	33
学生（博士後期課程）	219	210	218	202	197	199	202	187
その他の研究員	16	13	12	9	18	13	30	21
本務者合計	461	481	488	468	466	461	478	449

1-2 教員の内訳（2024年5月1日現在）

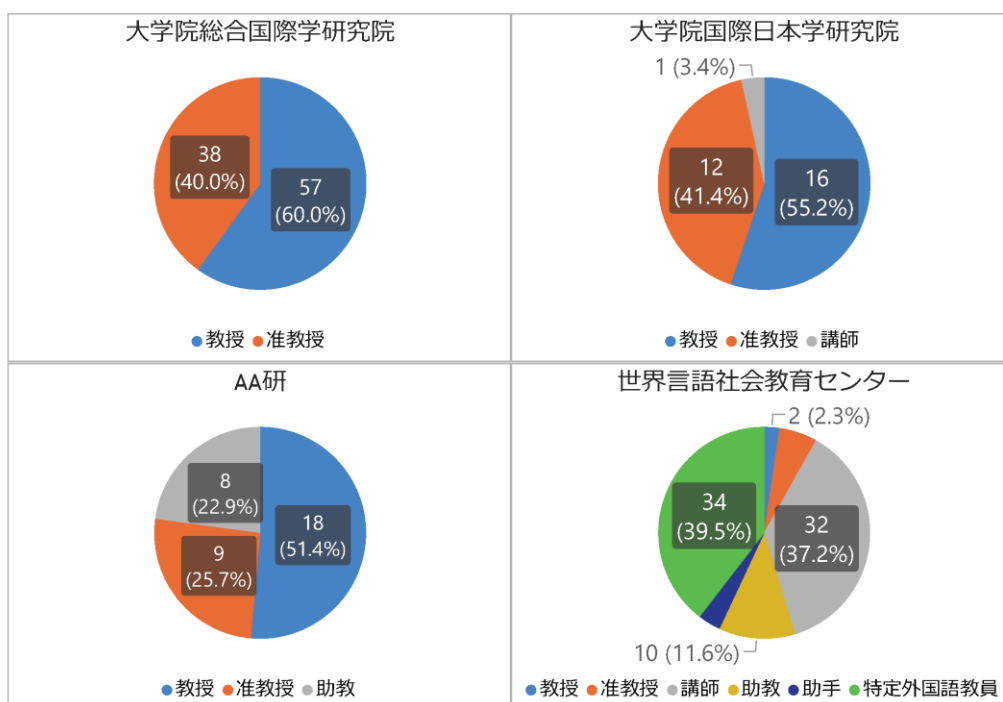
1-2-1 部局別

単位：名



1-2-2 職位別

単位：名

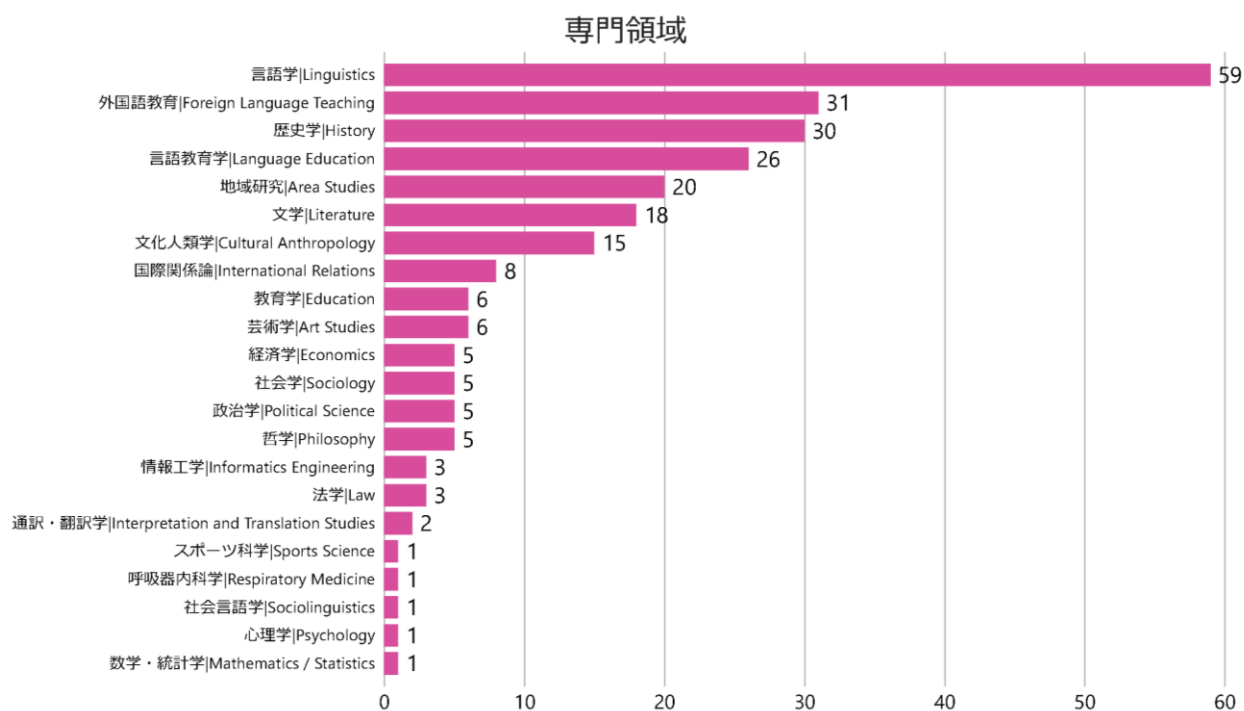


単位：名

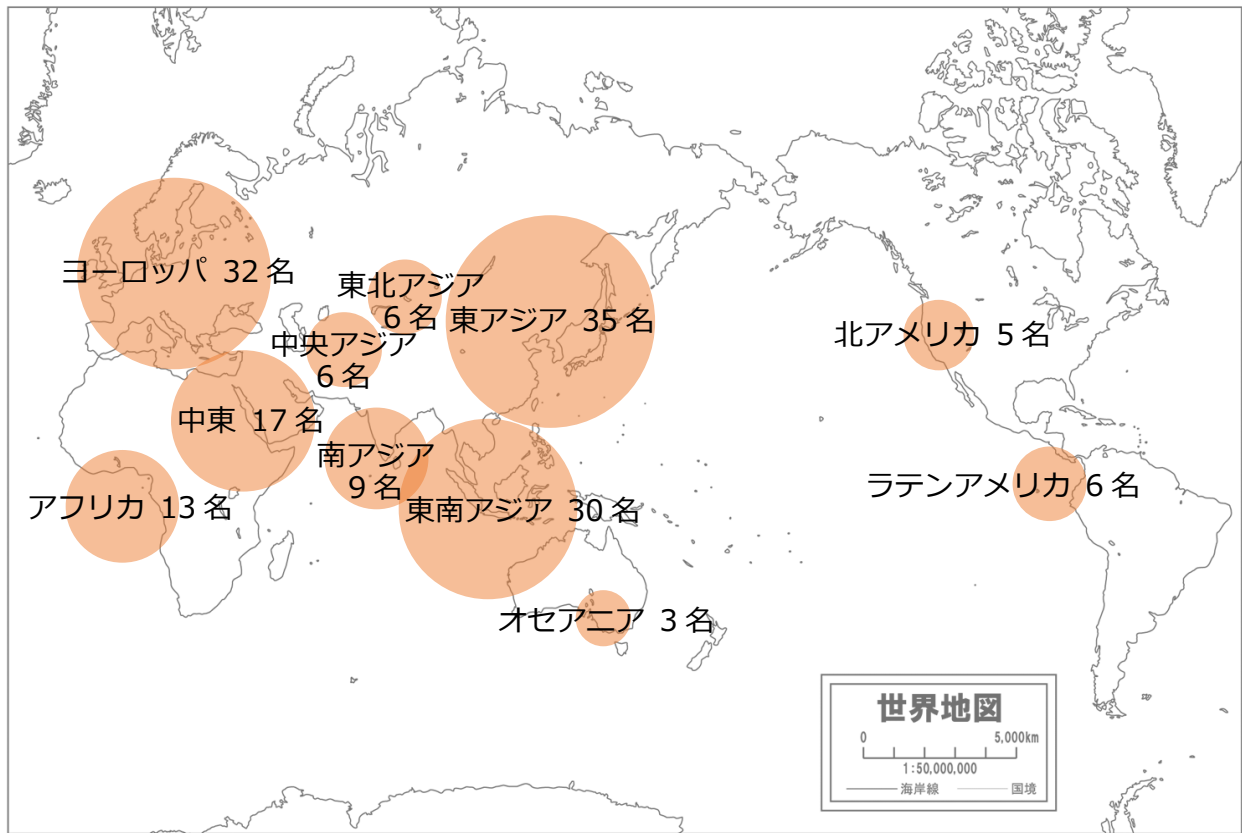
▲ 所属／職位	教授	准教授	講師	助教	助手	特定外国語教員	合計
役員等のうち教員を兼ねる者	4	0	0	0	0	0	4
大学院総合国際学研究院	57	38	0	0	0	0	95
大学院国際日本学研究院	16	12	1	0	0	0	29
AA研	18	9	0	8	0	0	35
世界言語社会教育センター	2	5	32	10	3	34	86
保健管理センター	1	0	0	0	0	0	1
教員合計	98	64	33	18	3	34	250

1－2－3 分野別

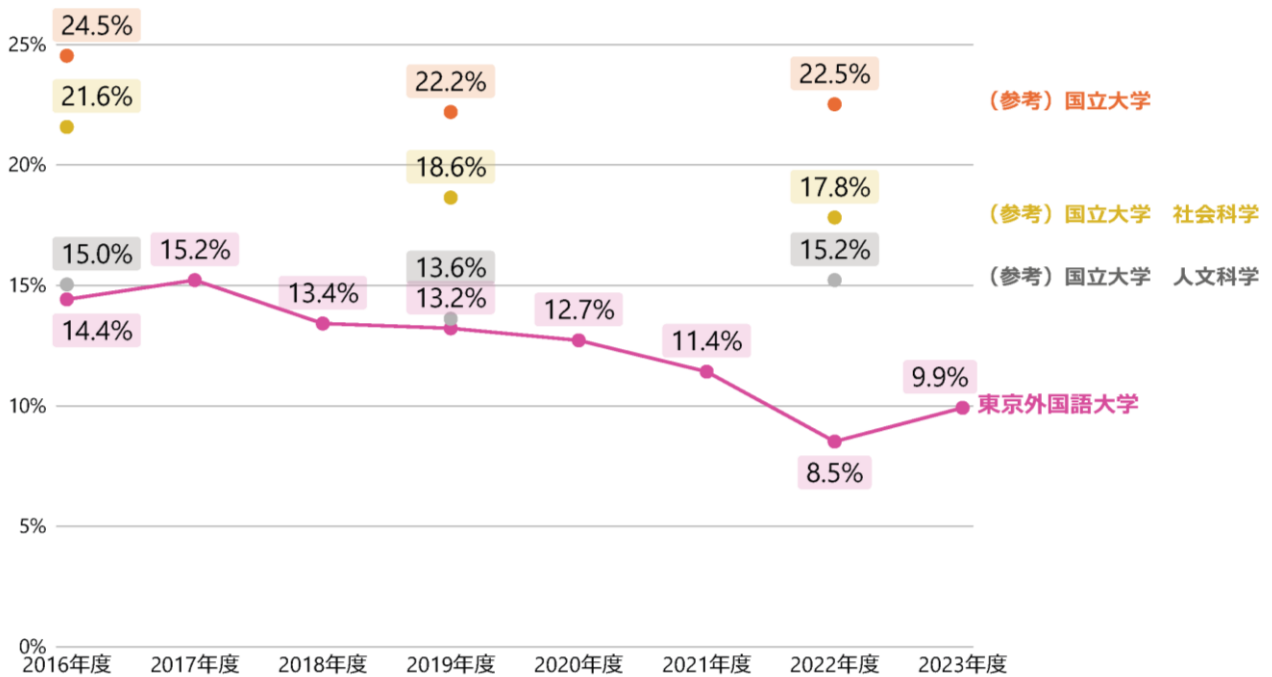
単位：名



専門地域



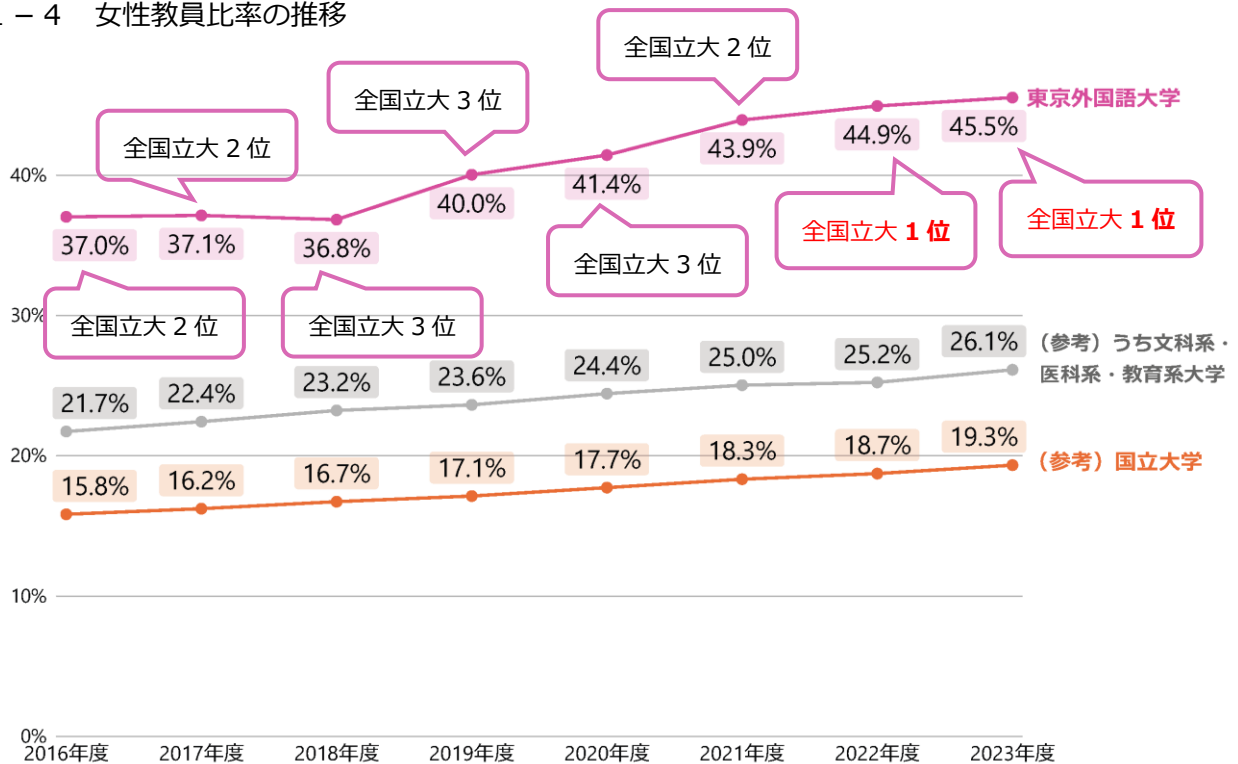
1-3 本務教員に占める 40 歳未満教員の割合の推移



文部科学省「学校教員統計調査」及び本学ウェブサイトより作成
(<https://www.tufs.ac.jp/abouttufs/organization/personnel.html>)

項目名／年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
東京外国語大学	14.4%	15.2%	13.4%	13.2%	12.7%	11.4%	8.5%	9.9%
(参考) 国立大学	24.5%			22.2%			22.5%	
(参考) 国立大学 社会科学	21.6%			18.6%			17.8%	
(参考) 国立大学 人文科学	15.0%			13.6%			15.2%	

1-4 女性教員比率の推移



※国立大学の特性別区分について

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による各国立大学の財務関係情報の集計・分析に用いられる特性別区分（86 大学を学部構成等の特性に応じて①旧帝国大学、②附属病院を有する総合大学、③附属病院を有しない総合大学、④理工系大学、⑤文科系大学、⑥医科系大学、⑦教育系大学、⑧大学院大学の 8 区分に分類）を基に、女性教員比率に近い⑤文科系大学、⑥医科系大学、⑦教育系大学の 3 区分を文科系大学・医科系大学・教育系大学とまとめている。

なお、⑧大学院大学については、設置している専攻の特性に応じて一部を本区分に追加する。

●文科系大学・医科系大学・教育系大学 一覧（22 大学）

【⑤文科系大学 5 大学】小樽商科大学、東京外国語大学、東京藝術大学、一橋大学、滋賀大学

【⑥医科系大学 4 大学】旭川医科大学、東京医科歯科大学、浜松医科大学、滋賀医科大学

【⑦教育系大学 12 大学】北海道教育大学、宮城教育大学、東京学芸大学、上越教育大学、
愛知教育大学、京都教育大学、大阪教育大学、兵庫教育大学、
奈良教育大学、鳴門教育大学、福岡教育大学、鹿屋体育大学

【⑧大学院大学 のうち本区分に分類される大学 1 大学】政策研究大学院大学

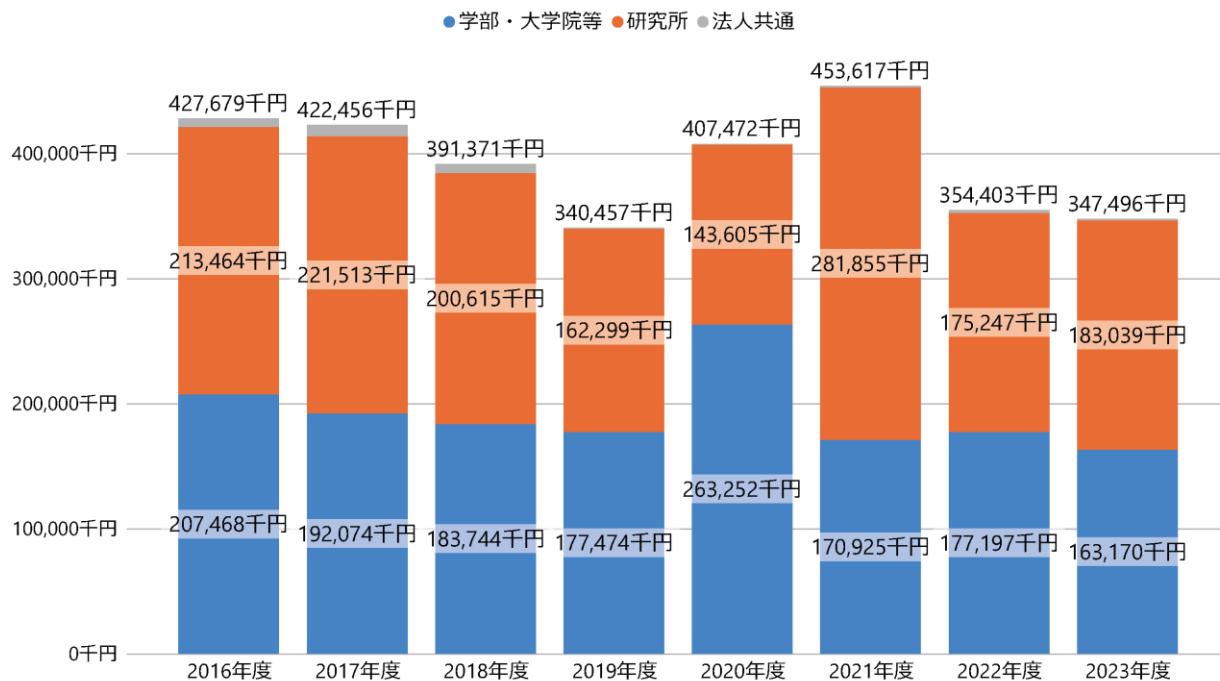
一般社団法人国立大学協会

「国立大学における男女共同参画推進の実施に関する第 20 回追跡調査報告書」より作成
(https://www.janu.jp/wp/wp-content/uploads/2024/02/202401houkoku_01.pdf)

項目名／年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
▲								
東京外国語大学	37.0%	37.1%	36.8%	40.0%	41.4%	43.9%	44.9%	45.5%
(参考) 国立大学	15.8%	16.2%	16.7%	17.1%	17.7%	18.3%	18.7%	19.3%
(参考) うち文科系・医科系・教育系大学	21.7%	22.4%	23.2%	23.6%	24.4%	25.0%	25.2%	26.1%

第2章 研究予算

2-1 セグメント別 研究経費の推移



セグメント	業務内容（構成する組織）
学部・大学院等	2021年度以前：学部、大学院、留学生日本語教育センター 2022年度以降：言語文化学部、国際社会学部、国際日本学部、大学院総合国際学研究科
研究所	アジア・アフリカ言語文化研究所
法人共通	附属図書館、総合情報コラボレーションセンター、保健管理センター、事務局

※各年度 本学の財務諸表「開示すべきセグメント情報」より抜粋

セグメント名／年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
学部・大学院等	207,468千円	192,074千円	183,744千円	177,474千円	263,252千円	170,925千円	177,197千円	163,170千円
研究所	213,464千円	221,513千円	200,615千円	162,299千円	143,605千円	281,855千円	175,247千円	183,039千円
法人共通	6,747千円	8,869千円	7,012千円	684千円	615千円	837千円	1,959千円	1,287千円
合計	427,679千円	422,456千円	391,371千円	340,457千円	407,472千円	453,617千円	354,403千円	347,496千円

2-2 国立大学の財務分析比率（研究分野）

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構では、各国立大学法人の財務諸表、事業報告書及び決算報告書などの公表資料のうち、財務関係の情報について集計・分析を行い、各国立大学法人が財務・経営改善の検討を行う際の参考資料として作成している。

各国立大学の財務関係情報の集計・分析に用いられる特性別区分（86 大学を学部構成等の特性に応じて①旧帝国大学、②附属病院を有する総合大学、③附属病院を有しない総合大学、④理工系大学、⑤文科系大学、⑥医科系大学、⑦教育系大学、⑧大学院大学の 8 区分に分類）に基づき、研究分野の財務分析を行う。

【⑤文科系大学 5 大学】小樽商科大学、東京外国語大学、東京藝術大学、一橋大学、滋賀大学

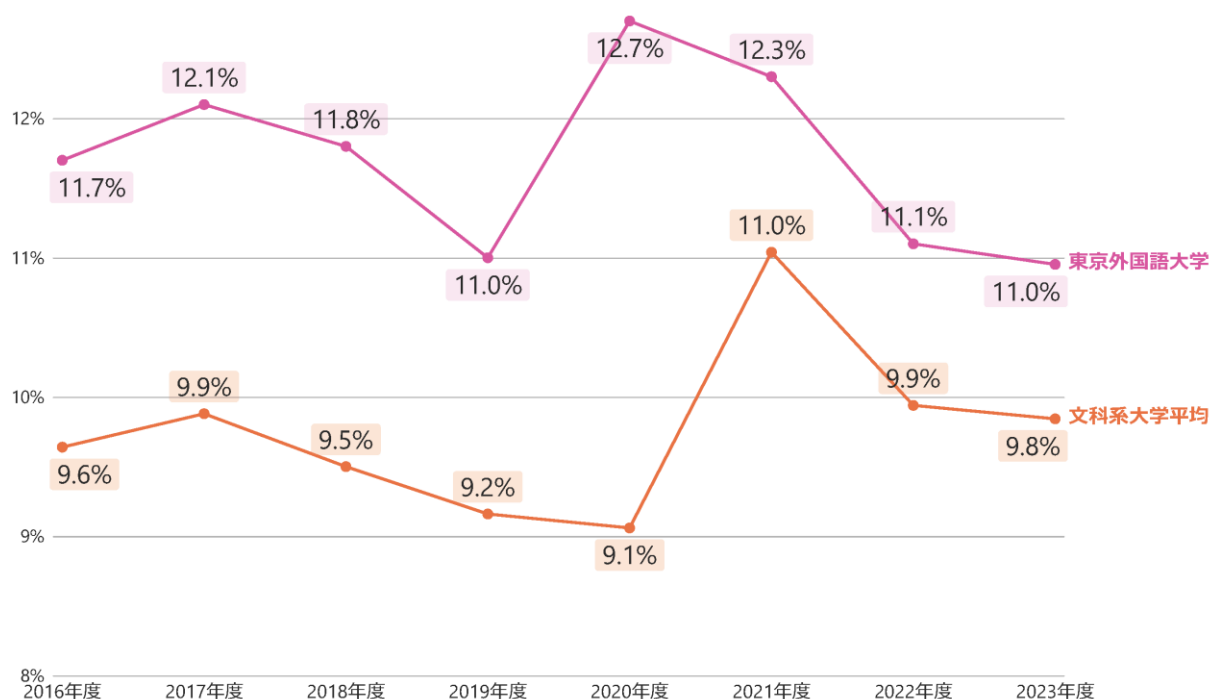
2016～2021 年度：独立行政法人大学改革支援・学位授与機構「国立大学法人の財務(大学別概要)」(https://www.niad.ac.jp/support/university_finance/summary/)

2022～2023 年度：各大学各年度財務諸表より作成

2-2-1 研究経費比率

定義式＝（【損益計算書】研究経費＋受託研究費＋共同研究費＋【科学研究費補助金の明細】科研費等の直接経費）／（【損益計算書】経常費用＋【科学研究費補助金の明細】科研費等の直接経費）×100

研究活動で消費される経費が大学の経常的な経費に占める割合を示す。この数値が大きいほど、研究活動に使用される資源の割合が高いことを示す。ただし、分子の【損益計算書】研究経費には人件費等が含まれておらず、また研究経費として大学の基盤的研究以外に受託研究及び科研費等による研究で消費される経費を含めている。

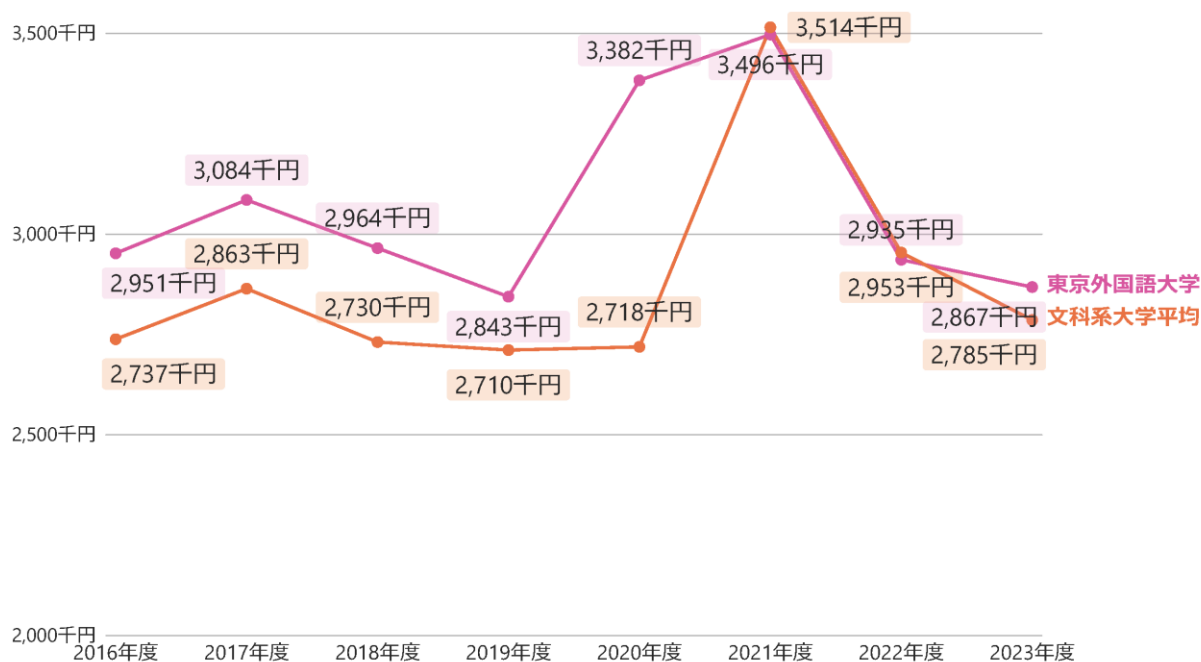


項目名／年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
東京外国語大学	11.7%	12.1%	11.8%	11.0%	12.7%	12.3%	11.1%	11.0%
文科系大学平均	9.6%	9.9%	9.5%	9.2%	9.1%	11.0%	9.9%	9.8%

2-2-2 常勤教員一人当たり研究費

定義式＝（【損益計算書】研究経費＋受託研究費＋共同研究費＋【科学研究費補助金の明細】科研費等の直接経費）／（【大学基本情報】教員数（本務者））

常勤教員一人当たりの研究活動を経費面で示す指標。分子の【損益計算書】研究経費には人件費等が含まれておらず、外部資金による研究経費（科研費等に関する附属明細書に掲載されている資金に限定）が含まれている。この数値が大きいほど、研究活動で使用する経費が大きい（財務的に研究活動が盛ん）と解釈できる。ただし、学部・学科や大学院研究科の構成・規模や附属病院の有無によって研究活動に必要とする資金量が異なる。とりわけ、附置研究所を有する大学は高めに算定される可能性があることに注意が必要。



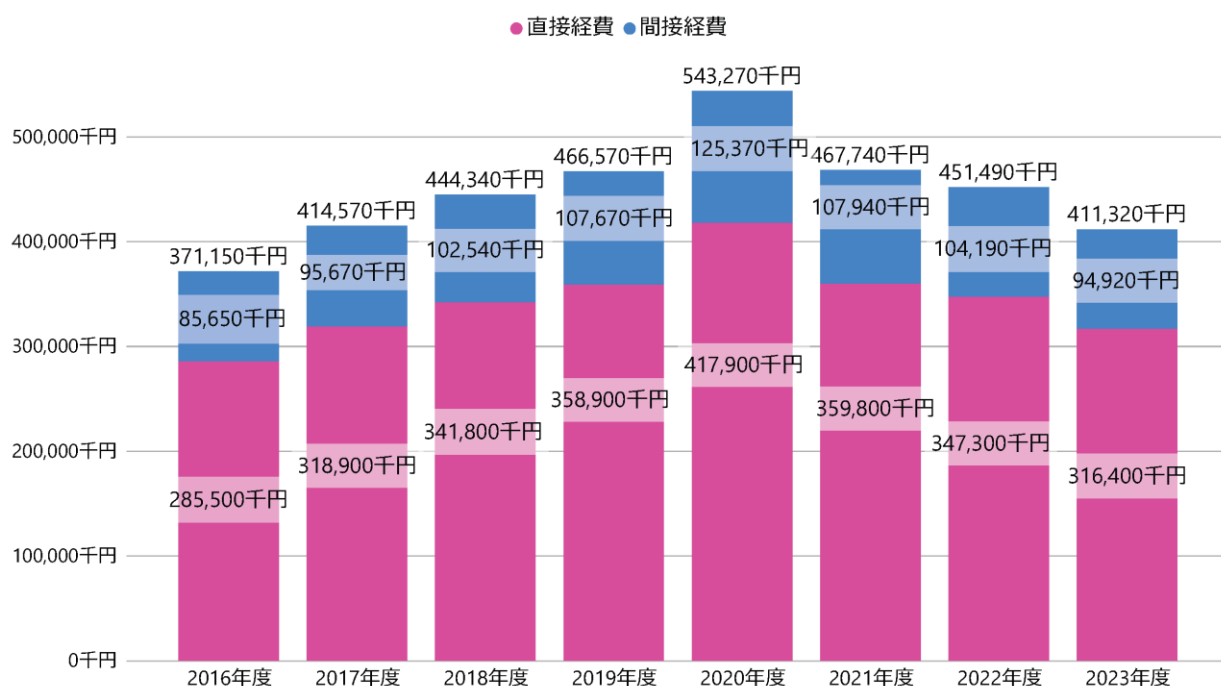
項目名／年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
東京外国語大学	2,951千円	3,084千円	2,964千円	2,843千円	3,382千円	3,496千円	2,935千円	2,867千円
文科系大学平均	2,737千円	2,863千円	2,730千円	2,710千円	2,718千円	3,514千円	2,953千円	2,785千円

第3章 外部資金

3-1 科研費

3-1-1 受入金額

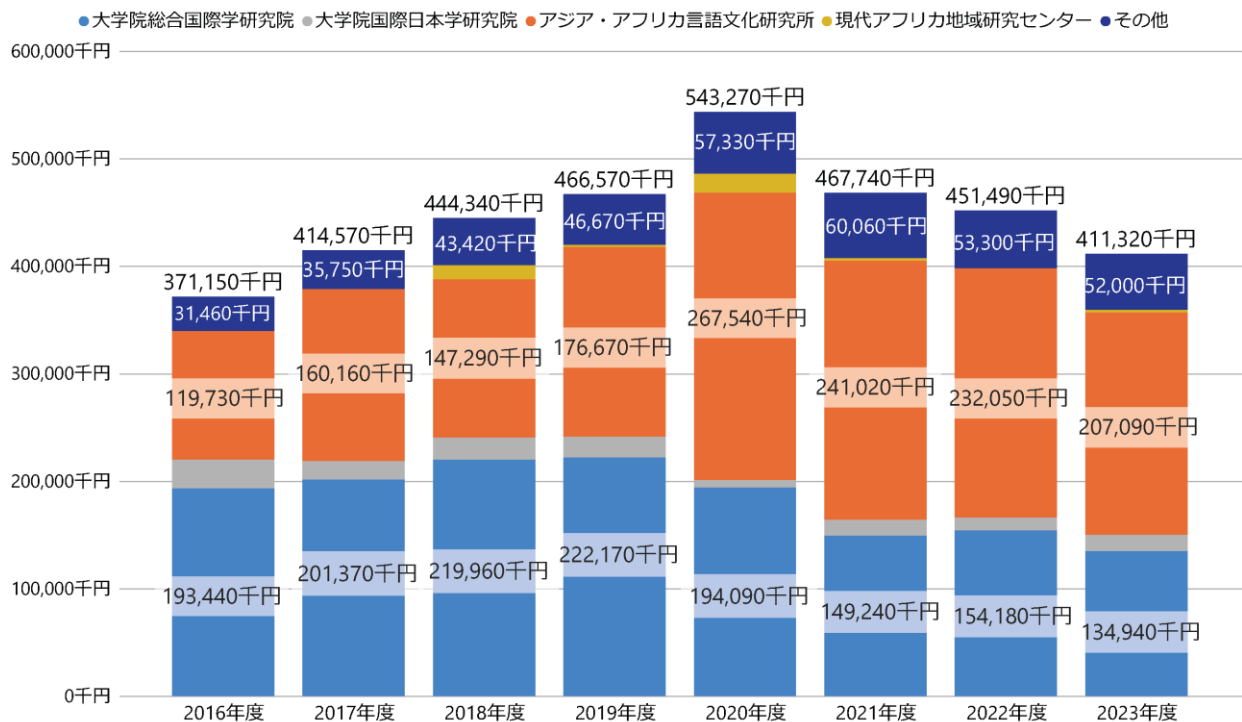
(1) 本学



日本学術振興会「研究機関別配分状況」2016年度～2023年度をもとに作成
(https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/index.html)

項目名／年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
直接経費	285,500千円	318,900千円	341,800千円	358,900千円	417,900千円	359,800千円	347,300千円	316,400千円
間接経費	85,650千円	95,670千円	102,540千円	107,670千円	125,370千円	107,940千円	104,190千円	94,920千円
合計	371,150千円	414,570千円	444,340千円	466,570千円	543,270千円	467,740千円	451,490千円	411,320千円

部局別受入金額の推移



日本学術振興会「研究機関別配分状況」2016年度～2023年度

(https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/index.html) 及び学内資料をもとに作成

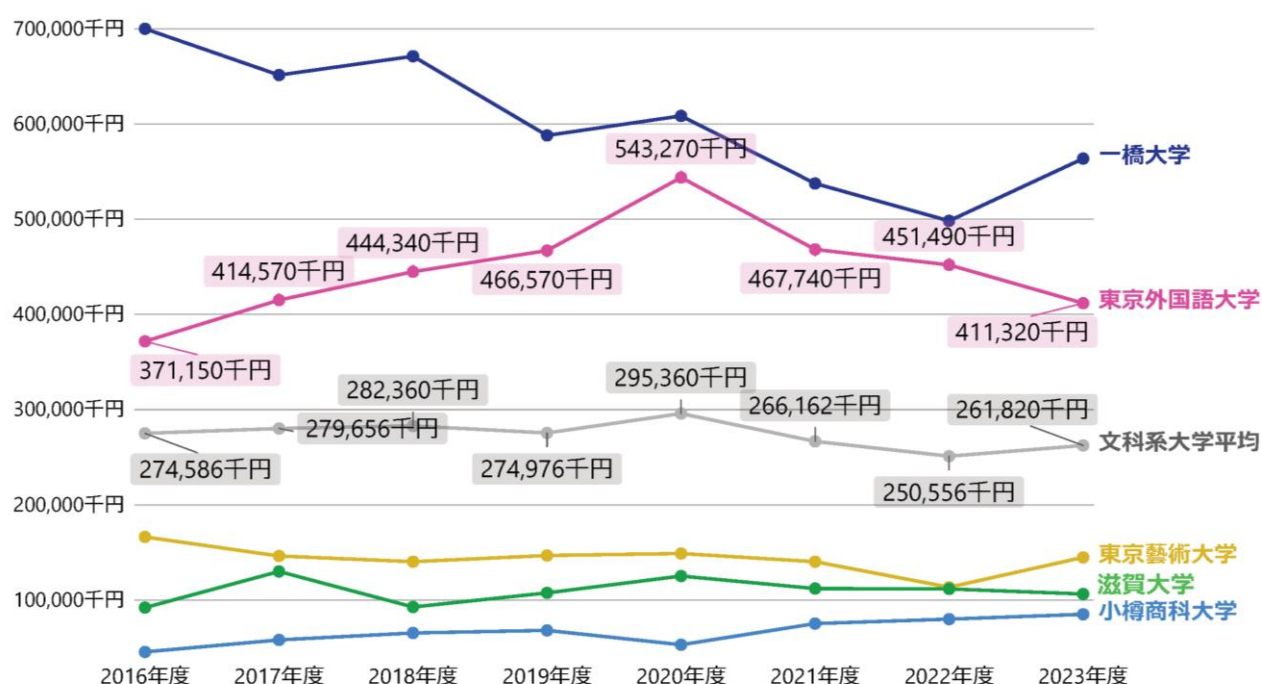
部局名／年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
大学院総合国際学研究院	193,440千円	201,370千円	219,960千円	222,170千円	194,090千円	149,240千円	154,180千円	134,940千円
大学院国際日本学研究院	26,520千円	17,290千円	20,540千円	19,110千円	6,890千円	14,950千円	11,960千円	15,080千円
アジア・アフリカ言語文化研究所	119,730千円	160,160千円	147,290千円	176,670千円	267,540千円	241,020千円	232,050千円	207,090千円
現代アフリカ地域研究センター	0千円	0千円	13,130千円	1,950千円	17,420千円	2,470千円	0千円	2,210千円
その他	31,460千円	35,750千円	43,420千円	46,670千円	57,330千円	60,060千円	53,300千円	52,000千円
合計	371,150千円	414,570千円	444,340千円	466,570千円	543,270千円	467,740千円	451,490千円	411,320千円

(2) 他大学との比較

※国立大学の文科系大学について

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による各国立大学の財務関係情報の集計・分析に用いられる特性格別区分（86 大学を学部構成等の特性に応じて①旧帝国大学、②附属病院を有する総合大学、③附属病院を有しない総合大学、④理工系大学、⑤文科系大学、⑥医科系大学、⑦教育系大学、⑧大学院大学の 8 区分に分類）を基に、⑤文科系大学の 5 大学間で比較を行う。

【⑤文科系大学 5 大学】小樽商科大学、東京外国語大学、東京藝術大学、一橋大学、滋賀大学



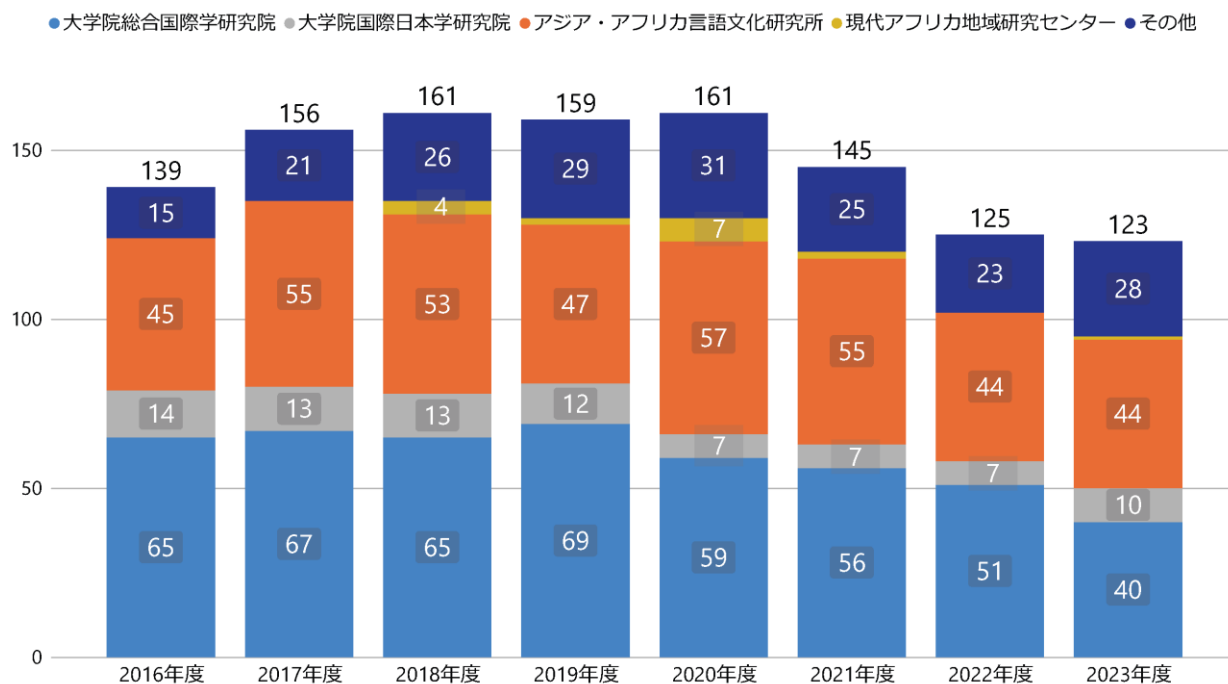
日本学術振興会「研究機関別配分状況」2016 年度～2023 年度をもとに作成
(https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/index.html)

項目名／年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
▲ 小樽商科大学	44,980千円	57,590千円	64,870千円	67,600千円	52,520千円	74,750千円	79,430千円	84,500千円
東京外国語大学	371,150千円	414,570千円	444,340千円	466,570千円	543,270千円	467,740千円	451,490千円	411,320千円
東京藝術大学	165,750千円	145,730千円	139,750千円	146,250千円	148,330千円	139,750千円	112,939千円	144,300千円
一橋大学	699,530千円	650,910千円	670,670千円	587,470千円	608,010千円	537,030千円	497,770千円	563,160千円
滋賀大学	91,520千円	129,480千円	92,170千円	106,990千円	124,670千円	111,540千円	111,150千円	105,820千円
文科系大学平均	274,586千円	279,656千円	282,360千円	274,976千円	295,360千円	266,162千円	250,556千円	261,820千円
(参考) 国立大学平均	1,561,951千円	1,568,953千円	1,561,298千円	1,560,501千円	1,589,521千円	1,596,235千円	1,578,559千円	1,566,287千円

3-1-2 受入件数

(1) 本学

単位：件



日本学術振興会「研究機関別配分状況」2016年度～2023年度

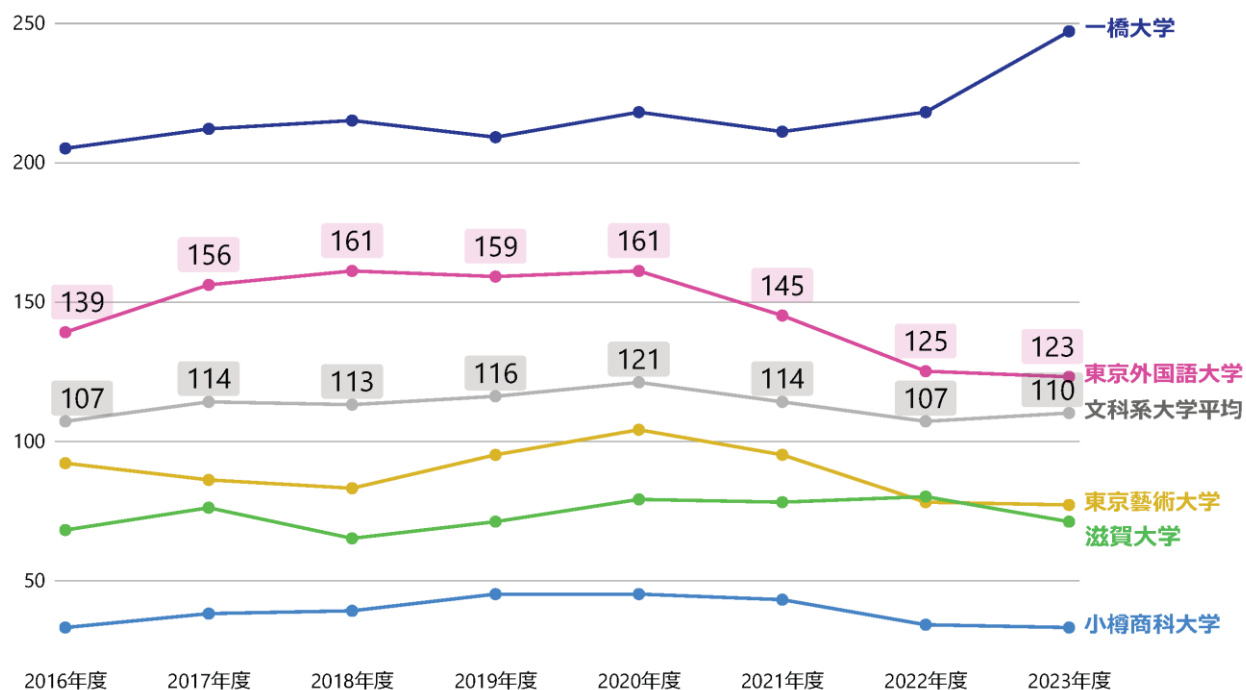
(https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/index.html) 及び学内資料をもとに作成

単位：件

部局名／年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
▲								
大学院総合国際学研究院	65	67	65	69	59	56	51	40
大学院国際日本学研究院	14	13	13	12	7	7	7	10
アジア・アフリカ言語文化研究所	45	55	53	47	57	55	44	44
現代アフリカ地域研究センター	0	0	4	2	7	2	0	1
その他	15	21	26	29	31	25	23	28
合計	139	156	161	159	161	145	125	123

(2) 他大学との比較

単位：件



日本学術振興会「研究機関別配分状況」2016年度～2023年度をもとに作成
(https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/index.html)

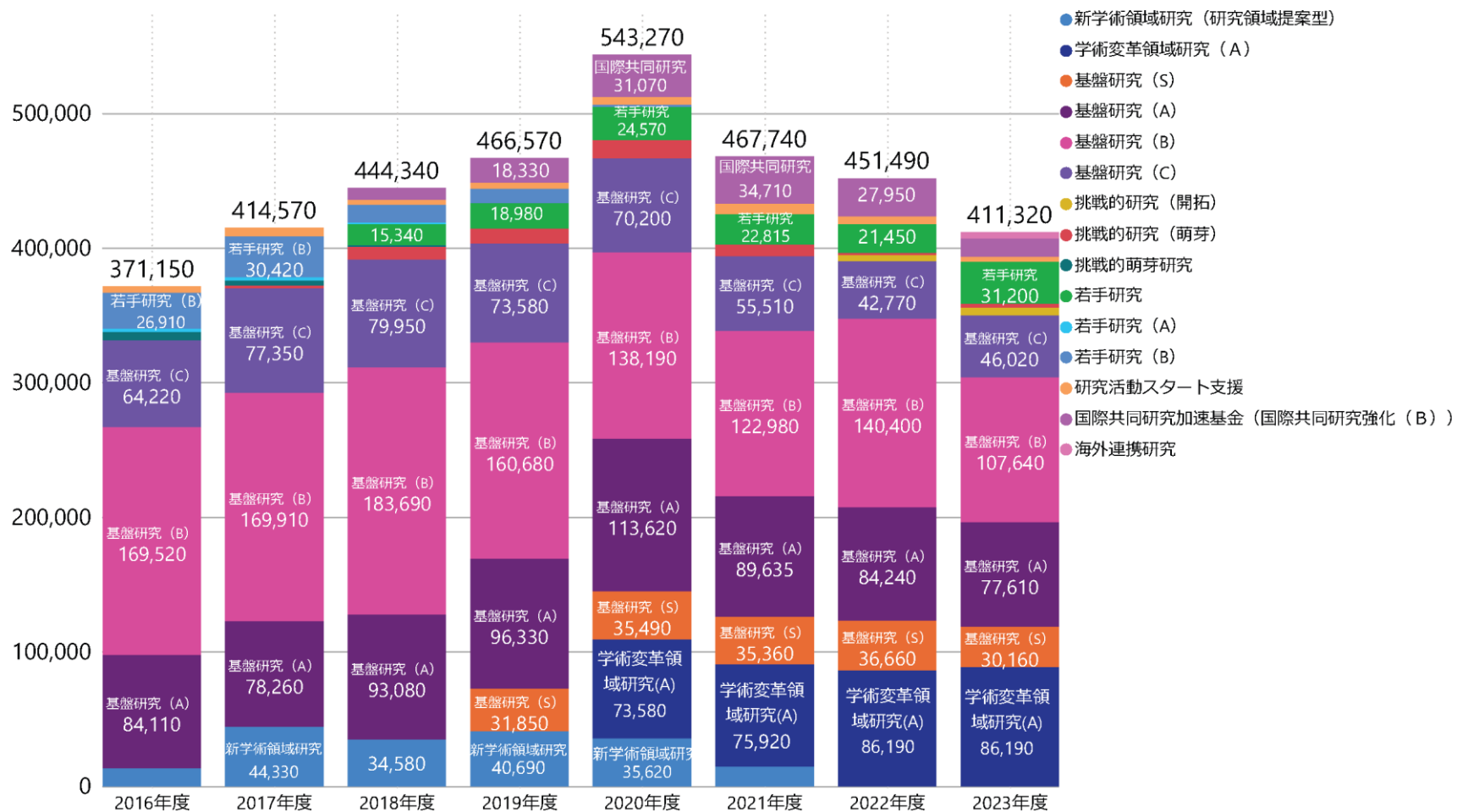
単位：件

項目名／年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
小樽商科大学	33	38	39	45	45	43	34	33
東京外国語大学	139	156	161	159	161	145	125	123
東京藝術大学	92	86	83	95	104	95	78	77
一橋大学	205	212	215	209	218	211	218	247
滋賀大学	68	76	65	71	79	78	80	71
文科系大学平均	107	114	113	116	121	114	107	110
(参考) 国立大学平均	474	469	460	475	492	496	493	480

研究種目別

●研究種目別受入金額の推移

単位：千円



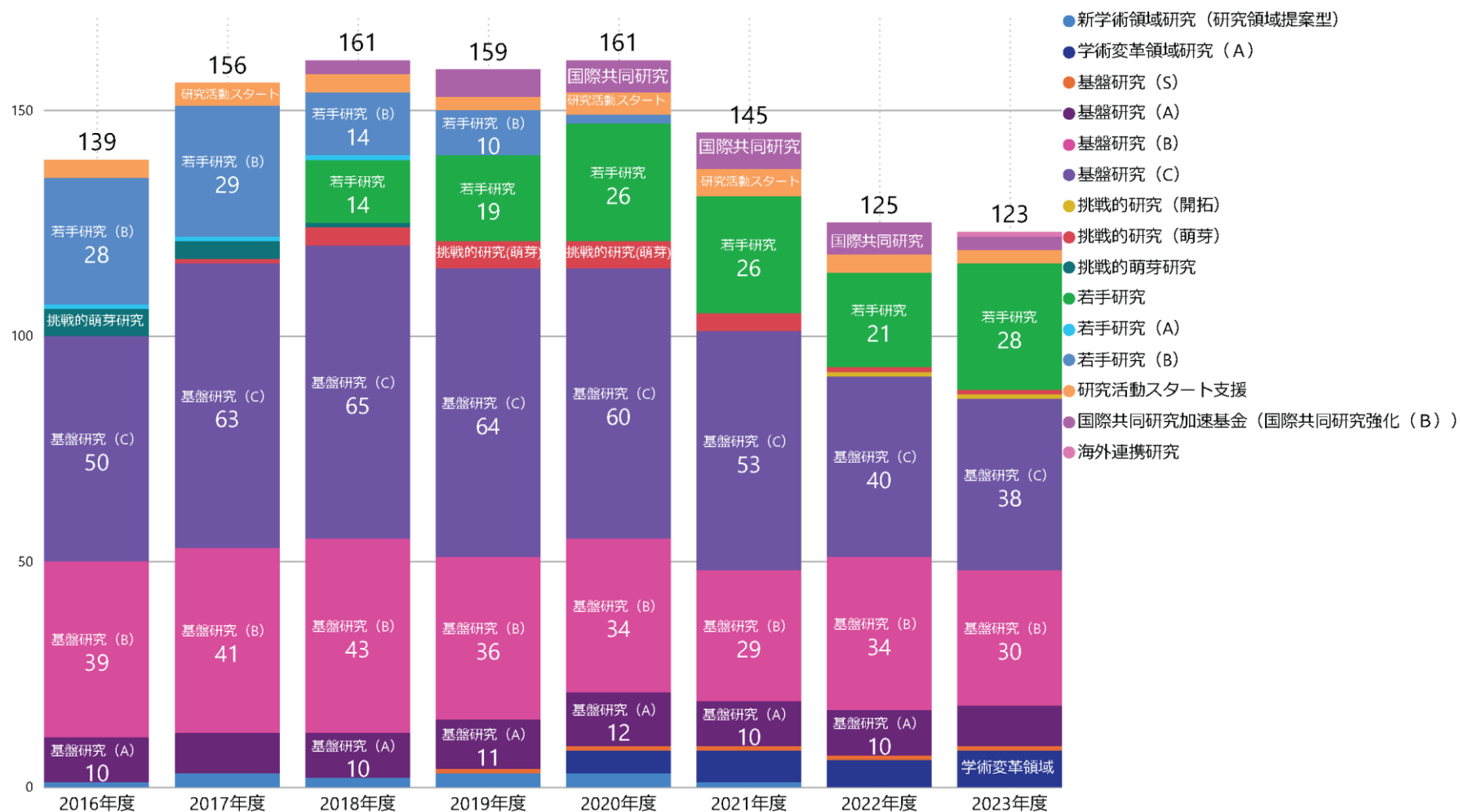
単位：千円

研究種目／年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
▲ 新学術領域研究（研究領域提案型）	13,390	44,330	34,580	40,690	35,620	14,560	0	0
学術変革領域研究（A）	0	0	0	0	73,580	75,920	86,190	88,530
基盤研究（S）	0	0	0	31,850	35,490	35,360	36,660	30,160
基盤研究（A）	84,110	78,260	93,080	96,330	113,620	89,635	84,240	77,610
基盤研究（B）	169,520	169,910	183,690	160,680	138,190	122,980	140,400	107,640
基盤研究（C）	64,220	77,350	79,950	73,580	70,200	55,510	42,770	46,020
挑戦的研究（開拓）	0	0	0	0	0	0	4,420	5,590
挑戦的研究（萌芽）	0	2,210	9,620	11,310	13,260	8,320	1,430	2,860
挑戦的萌芽研究	6,240	3,510	1,170	0	0	0	0	0
若手研究	0	0	15,340	18,980	24,570	22,815	21,450	31,200
若手研究（A）	2,340	2,470	1,300	0	0	0	0	0
若手研究（B）	26,910	30,420	13,390	10,660	1,820	0	0	0
研究活動スタート支援	4,420	6,110	3,510	4,160	5,850	7,930	5,980	3,770
国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））	0	0	8,710	18,330	31,070	34,710	27,950	13,520
海外連携研究								4,420
合計	371,150	414,570	444,340	466,570	543,270	467,740	451,490	411,320

※研究種目の詳細については、「研究種目一覧」（p.26）をご覧ください。

●研究種目別受入件数の推移

単位：件



単位：件

研究種目／年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
新学術領域研究（研究領域提案型）	1	3	2	3	3	1	0	0
学術変革領域研究（A）	0	0	0	0	5	7	6	8
基盤研究（S）	0	0	0	1	1	1	1	1
基盤研究（A）	10	9	10	11	12	10	10	9
基盤研究（B）	39	41	43	36	34	29	34	30
基盤研究（C）	50	63	65	64	60	53	40	38
挑戦的研究（開拓）	0	0	0	0	0	0	1	1
挑戦的研究（萌芽）	0	1	4	6	6	4	1	1
挑戦の萌芽研究	6	4	1	0	0	0	0	0
若手研究	0	0	14	19	26	26	21	28
若手研究（A）	1	1	1	0	0	0	0	0
若手研究（B）	28	29	14	10	2	0	0	0
研究活動スタート支援	4	5	4	3	5	6	4	3
国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））	0	0	3	6	7	8	7	3
海外連携研究								1
合計	139	156	161	159	161	145	125	123

日本学術振興会「研究機関別配分状況」2016年度～2023年度をもとに作成
https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/index.html

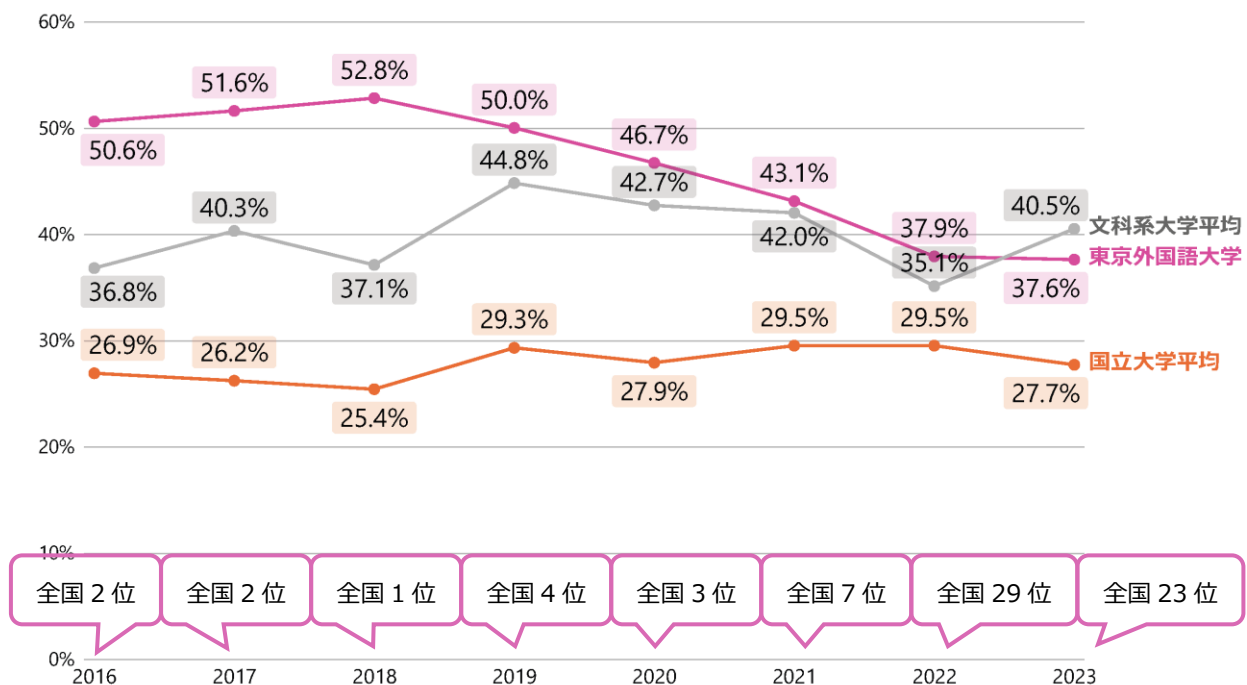
※研究種目の詳細については、「研究種目一覧」（p.26）をご覧ください。

＜研究種目一覧＞

研究種目	目的・内容	期間	金額
新学術領域研究 (研究領域提案型)	革新的・創造的な学術研究の発展が期待される研究領域であって、多様な研究グループによる有機的な連携の下に新たな視点や手法による共同研究等の推進により、(1) 既存の学問分野の枠に収まらない新興・融合領域の創成を目指すもの、又は(2) 当該領域の格段の発展・飛躍的な展開を目指す研究(その他要件あり)	5年間	単年度当たり1千万円から3億円程度
学術変革領域研究(A)	多様な研究者の共創と融合により提案された研究領域において、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを先導するとともに、我が国の学術水準の向上・強化や若手研究者の育成につながる研究領域の創成を目指し、共同研究や設備の共用化等の取組を通じて提案研究領域を発展させる研究	5年間	1研究領域単年度当たり5,000万円以上3億円まで(真に必要な場合は3億円を超える応募も可能)
基盤研究(S)	一人又は比較的少人数の研究者が行う独創的・先駆的な研究	原則5年間	5,000万円以上2億円以下
基盤研究(A)	一人又は複数の研究者が共同して行う独創的・先駆的な研究	3~5年間	2,000万円以上5,000万円以下
基盤研究(B)			500万円以上2,000万円以下
基盤研究(C)			500万円以下
挑戦的研究(開拓)	一人又は複数の研究者で組織する研究計画であって、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを志向し、飛躍的に発展する潜在性を有する研究 なお、(萌芽)については、探索的性質の強い、あるいは芽生え期の研究も対象とする	3~6年間	500万円以上2,000万円以下
挑戦的研究(萌芽)		2~3年間	500万円以下
挑戦的萌芽研究	一人又は複数の研究者で組織する研究であって、独創的な発想に基づく、挑戦的で高い目標設定を掲げた芽生え期の研究	1~3年間	500万円以下
若手研究	博士の学位取得後8年未満の研究者(博士の学位を取得見込みの者及び博士の学位を取得後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと博士の学位取得後8年未満となる者を含む。)が一人で行う研究	2~5年間	500万円以下
若手研究(A)	39歳以下の研究者が一人で行う研究 【平成30(2018)年度公募以降「基盤研究」に統合し廃止】	2~4年間	500万円以上3,000万円以下
若手研究(B)	39歳以下の研究者が一人で行う研究 【平成30(2018)年度公募以降「若手研究」に改称】	2~4年間	500万円以下
研究活動スタート支援	研究機関に採用されたばかりの研究者や育児休業等の取得又は未就学児の養育から復帰する研究者等が一人で行う研究	1~2年間	300万円以下(研究期間が1年の場合は150万円以下)
国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化(B))	複数の日本側研究者と海外の研究機関に所属する研究者との国際共同研究。学術研究の発展とともに、国際共同研究の基盤の構築や更なる強化、国際的に活躍できる研究者の養成も目指す。 【令和5(2023)年度公募以降「国際共同研究強化(B)」から「海外連携研究」に改称】	3~6年間	2,000万円以下
国際共同研究加速基金 (海外連携研究)			

3-1-3 採択率

●新規採択率の推移



※注：順位は新規応募件数が 50 件以上の研究機関を分析対象とした研究機関別の採択率による

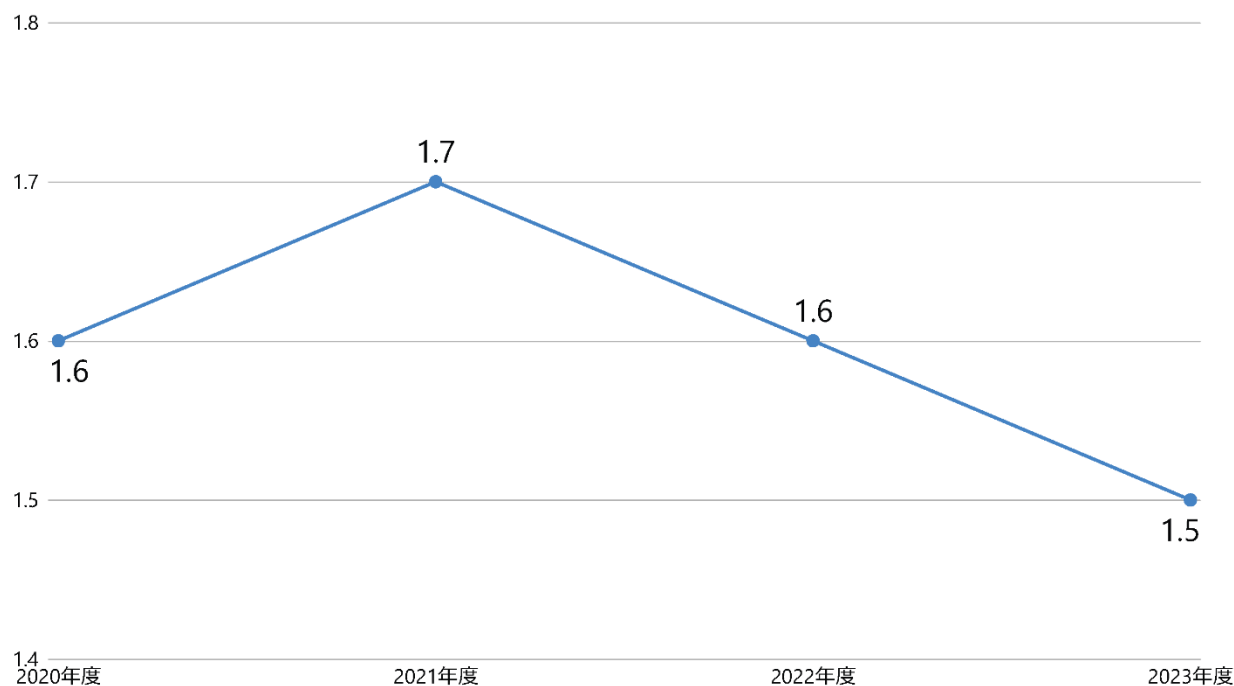
日本学術振興会「研究機関別配分状況」2016 年度～2023 年度をもとに作成
(https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/index.html)

項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
東京外国語大学	50.6%	51.6%	52.8%	50.0%	46.7%	43.1%	37.9%	37.6%
文科系大学平均	36.8%	40.3%	37.1%	44.8%	42.7%	42.0%	35.1%	40.5%
国立大学平均	26.9%	26.2%	25.4%	29.3%	27.9%	29.5%	29.5%	27.7%

3-1-4 科研費保有数

●教員一人当たりの科研費保有数の推移

単位：件/人



項目名／年度	単位	2020	2021	2022	2023
教員一人当たりの科研費保有数	件/人	1.6	1.7	1.6	1.5
代表課題数及び分担課題数	件	353	356	353	312
常勤教員数	人	216	213	216	212

3-1-5 2023年度 実施課題一覧

●学術変革領域研究(A)

イスラーム的コネクティビティにみる信頼構築：世界の分断をのりこえる戦略知の創造

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
学術変革領域研究(A)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	黒木 英充	イスラーム的コネクティビティにみる信頼構築：世界の分断をのりこえる戦略知の創造	R2	R6
学術変革領域研究(A)	アジア・アフリカ言語文化研究所	准教授	野田 仁	イスラームの知の変換	R2	R6
学術変革領域研究(A)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	黒木 英充	移民・難民とコミュニティ形成	R2	R6
学術変革領域研究(A)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	近藤 信彰	イスラーム共同体の理念と国家体系	R2	R6
学術変革領域研究(A)	アジア・アフリカ言語文化研究所	准教授	熊倉 和歌子	デジタルヒューマニティーズ的手法によるコネクティビティ分析	R2	R6
学術変革領域研究(A)	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	井堂 有子	有事と食糧—中東・北アフリカにおいて試されるコネクティビティと信頼構築	R5	R6
学術変革領域研究(A)	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	沼田 彩誉子	日本・満洲・朝鮮半島生まれタタール移民のコネクティビティを巡る語りの研究	R5	R6
学術変革領域研究(A)	アジア・アフリカ言語文化研究所	助教	太田 絵里奈 (塚田 絵里奈)	14～16世紀アラブ都市エリート間の名目的コネクティビティの可視化分析	R5	R6

●思想、芸術およびその関連分野

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	高尾 賢一郎	世俗化と風紀に関する宗教・地域間比較：一神教社会を中心に	R4	R7
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	教授	八木 久美子	家族概念から見る近代国家におけるイスラム性と世俗性：20世紀のエジプトを中心に	R2	R5
若手研究	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	岡本 圭史	宗教現象の再画定をめぐる宗教人類学的研究——ケニア、ドゥルマ社会の悪魔崇拜言説	R2	R5
若手研究	世界言語社会教育センター	准教授	H a u k a m p I r i s	Generic innovation and collaborative scriptwriting: the Narutaki Group and their films within global and local contexts	R3	R5
若手研究	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	神田 惟	ペルシア語文化圏における動物寓意譚受容史：『カリールとディムナ』挿絵入写本の研究	R5	R8
研究活動スタート支援	世界言語社会教育センター	講師	入江 哲朗	1890年代前後における社会有機体説のアメリカ化の思想的解明	R5	R6

●文学、言語学およびその関連分野

1 文学

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	近藤 信彰	ペルシア語歴史物語の生成、伝播、受容に関する学際的研究	R2	R5
基盤研究(C)	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	小田 淳一	ジョゼフ＝シャルル・マルドリユス遺贈未公開手稿カルネの翻刻と分析	R2	R6
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	准教授	野平 宗弘	ベトナムの詩人、阮攸の燕行漢詩集に関する基礎的研究とそれに基づく朝貢ルートの解明	R2	R5
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	教授	武田 千香	ブラジルのマイノリティ文学における複合性：交差する人種・ジェンダー・クラス	R3	R5
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	教授	佐々木 あや乃	ペルシア語神秘主義叙事詩『精神的マスナヴィー』のテキスト研究	R3	R5
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	教授	久野 量一	ラテンアメリカ文学における冷戦と東アジアに関する研究	R4	R6
若手研究	世界言語社会教育センター	講師	邵 丹	再創造としての文学翻訳ー藤本和子論	R5	R7

2 言語学

・アジア

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(B)	世界言語社会教育センター	教授	齋藤 スニサー	代名詞代用・呼びかけ表現の通言語学的研究	R2	R5
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	澤田 英夫	ビルマの少数民族言語に関する類型的・系統的俯瞰像の構築	R2	R6
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	中山 俊秀	言語喪失の動態の研究：沖永良部語若年層話者における言語消滅メカニズムの解明	R2	R5
基盤研究(B)	大学院総合国際学研究院	教授	風間 伸次郎	アルタイ諸言語の文法の総合的研究	R2	R6
基盤研究(C)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	塩原 朝子	パラレルコーパスに基づくマレー語変種にみられる「一致」の発達についての研究	R2	R6
基盤研究(C)	大学院国際日本学研究院	教授	花園 悟	危機言語教育に対する日本語教育の方法の適用(3) —中級沖縄語教科書の作成—	R3	R5
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	准教授	南 潤珍	小説コーパスに見る20世紀韓国語の変化に対する総合的研究	R3	R5
基盤研究(C)	アジア・アフリカ言語文化研究所	准教授	伊藤 智ゆき	1970年代韓国朝鮮語咸鏡道方言の音響音声学的研究	R5	R7
基盤研究(C)	その他部局等	名誉教授	益子 幸江	東南アジアの諸言語における韻と語構成から見たリズムの形成について	R5	R7
基盤研究(C)	その他部局等	名誉教授	峰岸 真琴	東南アジア大陸部の孤立語における「時の表現」に関する研究	R5	R7
若手研究	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	青井 隼人	琉球諸語における声門化子音の類型的・歴史的研究	R2	R5
若手研究	アジア・アフリカ言語文化研究所	准教授	倉部 慶太	失われつつあるカチン族の言語文化の記録・保存・継承	R2	R5
若手研究	世界言語社会教育センター	講師	山本 恭裕	バブア・ニューギニアのアイク語の言語ドキュメンテーションと文法記述	R2	R5
若手研究	アジア・アフリカ言語文化研究所	助教	安達 真弓	在日ベトナム系「コミュニティ」の再定義：居住地域の言語景観から考える	R4	R8
若手研究	世界言語社会教育センター	講師	山田 洋平	モンゴル語族の諸言語の自然談話データに基づく記述研究	R4	R8
研究活動スタート支援	大学院国際日本学研究院	研究員	泉 大輔	現代日本語における逸脱的な造語の成立基盤に関する研究	R4	R5
国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	塩原 朝子	インドネシア・フィリピンにおける少数言語の記録とコーパス構築に基づく研究	H31	R5

・ヨーロッパおよびアメリカ

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(C)	大学院総合国際学 研究院	准教授	大谷 直輝	言語使用から創発する言語知識のありようを探 る：英語の構文の変化・変種・変異の分析	R5	R8
基盤研究(C)	世界言語社会教育 センター	講師	水沼 修	ポルトガル語を中心とするロマンス諸語における 口語の歴史的推移について	R5	R8
若手研究	アジア・アフリカ 言語文化研究所	特別研究員 (P D)	岩崎 加奈絵	ハワイ語における「視点」の役割に関する記述的 研究：空間表現を中心に	R5	R9
研究活動スタート支援	大学院総合国際学 研究院	准教授	内原 洋人	トラバネク語の動詞形態論の通方言的研究	R4	R5
国際共同研究加速基金（国 際共同研究強化(A)）	大学院総合国際学 研究院	准教授	大谷 直輝	認知・社会言語学の理論的枠組みの精緻化と方法 論の構築	R5	R7

・アフリカおよび地域横断

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(A)	大学院総合国際学 研究院	教授	中川 裕	言語音の多様性の外延の理解拡大：3基軸データ によるカラハリ言語帯の音韻類型論	R2	R6
基盤研究(B)	アジア・アフリカ 言語文化研究所	准教授	山越 康裕	「文」の規定にかんする記述的研究	R4	R6
基盤研究(B)	アジア・アフリカ 言語文化研究所	准教授	品川 大輔	パラメーター連動に基づくバントゥ諸語類型論： 多様性と普遍性の原理的理解に向けて	R5	R9
若手研究	大学院国際日本学 研究院	研究員	牧 彩花	人称表現を用いた心的態度の伝達ストラテジーに 関する日仏対照言語学研究	R2	R5
挑戦的研究（開拓）	大学院総合国際学 研究院	教授	中川 裕	カラハリ狩猟採集民の持続可能な識字活動の基盤	R4	R8

●歴史学、考古学、博物館学およびその関連分野

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(A)	大学院総合国際学 研究院	教授	吉田 ゆり子	南信濃山里社会の文化的景観とその歴史的形成過程に関する基盤的研究	R2	R5
基盤研究(A)	大学院総合国際学 研究院	准教授	伊東 剛史	危機の時代の感情史：感情創発と社会変動の関係を理解するための統合的モデルの構築	R5	R8
基盤研究(B)	大学院総合国際学 研究院	教授	篠原 琢	帝国境界の近代化と国民化する帝国	R2	R5
基盤研究(B)	アジア・アフリカ 言語文化研究所	准教授	石川 博樹	第2次イタリア・エチオピア戦争をめぐる人種・民族問題の研究	R3	R6
基盤研究(B)	その他部局等	名誉教授	黒沢 直俊	文禄・慶長の役（1592-1598）に関するヨーロッパ文書の文献言語学的・歴史学的研究	R5	R8
基盤研究(C)	アジア・アフリカ 言語文化研究所	研究員	永原 陽子	「人骨研究」と植民地主義—ヨーロッパ・アフリカ・日本	R2	R5
基盤研究(C)	アジア・アフリカ 言語文化研究所	准教授	熊倉 和歌子	中世エジプト環境変動期の村落社会と地方行政	R2	R5
基盤研究(C)	世界言語社会教育 センター	准教授	ロッシヤデソウザ ルシオマヌエル	The first Asian/Japanese communities in the Hapsburg Empire (1560-1770)	R4	R6
基盤研究(C)	大学院総合国際学 研究院	教授	千葉 敏之	歴史的ロタリングアの堆積構造とオットー朝宮廷の統治実践	R4	R6
基盤研究(C)	大学院総合国際学 研究院	准教授	芹生 尚子	軍事と男性性の関係をめぐる基礎的研究—啓蒙の世紀フランスにおける軍隊社会の諸相	R4	R7
基盤研究(C)	大学院総合国際学 研究院	准教授	久米 順子	中世イベリア世界の多文化共生再考：アルフォンソ10世賢王時代に関する学際的研究	R4	R6
基盤研究(C)	アジア・アフリカ 言語文化研究所	教授	高松 洋一	18世紀オスマン朝における図書館蔵書の形成：マフムト1世時代(1730-54)を中心として	R5	R7
若手研究	アジア・アフリカ 言語文化研究所	特別研究員 (CPD)	上林 朋広	南アフリカにおけるズールー・エスニシティの変容：人種隔離から排外主義へ	R3	R6
若手研究	世界言語社会教育 センター	講師	大鳥 由香子	19世紀末から1920年代半ばの米国国境における児童保護と移民規制	R4	R7
若手研究	アジア・アフリカ 言語文化研究所	助教	太田 絵里奈 (塚田 絵里奈)	マムルーク朝後期人名録のデジタル解析に基づく文民エリートとの関係構築	R5	R9
若手研究	世界言語社会教育 センター	助教	古川 高子	社会的自由主義時代オーストリアの山岳ツーリズムに関する社会構造的な研究	R5	R8
国際共同研究加速基金（海外連携研究）	大学院総合国際学 研究院	准教授	伊東 剛史	国際共同研究による動物園史料アーカイブの構築：「人と動物の関係史」の新機軸	R5	R8

●地理学、文化人類学、民俗学およびその関連分野

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(S)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	河合 香史	社会性の起原と進化：人類学と霊長類学の協働に基づく人類進化理論の新開拓	H31	R5
基盤研究(A)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	外川 昌彦	現代南アジアにおけるムスリム社会の多極化の傾向－テロとツーリズム	H31	R5
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	床呂 郁哉	ものの人類学的研究－技芸複合の視点から	R2	R6
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	西井 凉子	死の人類学再考：アフェクト/情動論による「現実」への人類学的手法による探究	R3	R7
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	准教授	吉田 ゆか子	「コロナ状況」下で育まれる芸能－危機への応答・身体性をめぐる交渉・社会との関係	R3	R5
基盤研究(B)	大学院総合国際学研究院	教授	土佐 桂子	実践としての民主主義：ミャンマーにおける「贈与のネットワーク」の可能性	R4	R7
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	准教授	椎野 若菜	現代東部アフリカ社会をゆるがすセクシュアリティ・結婚の変容とシングル化	R4	R7
基盤研究(C)	その他部局等	名誉教授	深澤 秀夫	マダガスカルにおける民衆暴力の生成基盤と国家権力との再帰性をめぐる人類学的研究	R3	R6
基盤研究(C)	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	内山田 康	原子力開発のグローバルなネットワークの周縁における生活世界の変容の人類学	R3	R5
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	研究員	上村 明	モンゴル国西部の音の世界と声の技術：アルタイの山の主といかに交信するか	R4	R7
若手研究	大学院総合国際学研究院	研究員	金 理花	1950-80年代在日朝鮮人の民族音楽：冷戦下に誕生したディアスポラ文化	R5	R7
若手研究	現代アフリカ地域研究センター	研究員	村津 蘭	アフリカの呪術をめぐる情動の研究－マルチモーダル・アプローチによる	R5	R9
挑戦的研究（萌芽）	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	高尾 賢一郎	ペルシャ湾岸ユダヤ教徒を事例とした現代イスラーム社会における寛容・共生論の展開	R5	R7
国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）	その他部局等	名誉教授	深澤 秀夫	インド洋西域島嶼社会における包摂・接合・分離をめぐる共和制と多元問題の共同研究	H31	R6

●政治学およびその関連分野

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(A)	大学院総合国際学 研究院	教授	武内 進一	アフリカ国家論の再構築—農村からの視点	R3	R7
基盤研究(C)	大学院総合国際学 研究院	研究員	青木 健太	紛争後のハイブリッドな国家建設の妥当性に関する実証研究：アフガニスタンを事例に	R3	R5
基盤研究(C)	大学院総合国際学 研究院	准教授	中山 裕美	生命科学技術による国際秩序変容の分析：生体情報を用いた移民管理の普及を事例として	R3	R6
基盤研究(C)	大学院総合国際学 研究院	教授	若松 邦弘	政党支持の再編成と農村の政治—イギリス政治における新たな対立図式の起源	R5	R8
若手研究	世界言語社会教育 センター	講師	木村 正美	「近代」の中の占領期：日米同盟形成要因の再考	R2	R5
国際共同研究加速基金（国 際共同研究強化(B)）	大学院総合国際学 研究院	教授	松永 泰行	国家・政治と宗教的ナショナリズム：比較の視座におけるイランの西部国境地域	R3	R6

●教育学およびその関連分野

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(A)	大学院総合国際学 研究院	教授	根岸 雅史	CEFR-Jに基づくCAN-DOタスク中心の教授と評価に関する総合的研究	R2	R6
基盤研究(A)	その他部局等	名誉教授	芝野 耕司	大規模日本語定型表現抽出と構造分析による帰納的文法再構築及び日本語教育への応用	R2	R6
基盤研究(A)	大学院総合国際学 研究院	教授	投野 由紀夫	CEFR-J 準拠多言語教育統合環境の構築と実践	R4	R8
基盤研究(C)	大学院総合国際学 研究院	教授	加藤 美帆	欠席の戦後史—長期欠席、登校拒否から不登校へ	H31	R5
若手研究	アジア・アフリカ 言語文化研究所	研究員	谷口 晴香	寛容な社会性をもつニホンザルの離乳期の育児：子どもの中で子を育てる	R3	R6

●その他の分野

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(A)	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	長澤 榮治	イスラーム・ジェンダー学と現代的課題に関する応用的・実践的研究	R2	R5
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	准教授	内山 直子	グローバル・バリューチェーンとメキシコ経済成長のパラドックスに関する実証分析	R4	R7
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	准教授	田島 充士	他者との感情的葛藤を解消し対話を促進する教育：カウンセラー型リーダーの養成	R5	R7
若手研究	世界言語社会教育センター	講師	田邊 佳美	仏旧植民地出身移民（の子孫）の抵抗—インターセクショナルな連合の不／可能性	R2	R5
若手研究	世界言語社会教育センター	講師	川本 智史	前近代オスマン朝の住宅史の再構築：接客空間の形成を中心に	R2	R5
若手研究	世界言語社会教育センター	講師	梁 英聖	日英イミグレーションレジームの比較社会学	R5	R7

●分野横断：言語教育

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(B)	大学院総合国際学 研究院	教授	川口 裕司	言語変異に基づくフランス語、日本語、トルコ語 の対照中間言語分析	R2	R5
基盤研究(B)	大学院国際日本学 研究院	教授	鈴木 智美	辞書サイト・アプリ開発に資する質の高い日本語 例文バンクの構築とその応用研究	R3	R6
基盤研究(B)	その他部局等	名誉教授	高島 英幸	小学校プロジェクト型外国語教育における練習か ら言語活動までの可視化と評価	R3	R7
基盤研究(B)	大学院総合国際学 研究院	教授	吉富 朝子	CEFR-Jに準拠した英語スピーキング能力の指導・ 評価システムの拡充	R3	R6
基盤研究(B)	大学院国際日本学 研究院	教授	伊集院 郁子	日本語アカデミック・ライティングの学習および 教育を支援するポータルサイトの構築	R4	R8
基盤研究(B)	大学院総合国際学 研究院	准教授	野元 裕樹	マレー・インドネシア語における文法習得難易度 解明のための容認性コーパス開発	R5	R8
基盤研究(C)	大学院国際日本学 研究院	研究員	本田 ゆかり	日本語到達度指標JFスタンダードに準拠した語 彙・表現リストの開発	R3	R5
基盤研究(C)	世界言語社会教育 センター	講師	沖本 与子	日本語学習者と日本語教師のためのオンライン自 他動詞習得支援システムの開発	R3	R5
基盤研究(C)	大学院国際日本学 研究院	准教授	大津 友美	職場における架け橋人材のコミュニケーションの 研究	R4	R7
基盤研究(C)	大学院国際日本学 研究院	教授	中井 陽子	会話データによるインターアクションの問題分析 と運用能力育成のための教材開発	R5	R7
若手研究	世界言語社会教育 センター	講師	嶋原 耕一	DLAの相互行為分析—児童生徒の能力がいかによ り引き出されているのかに注目して—	R5	R9
若手研究	大学院国際日本学 研究院	研究員	WANG Jue i Ch i	第二言語聴解における理解構築過程に関する研究	R5	R7

●分野横断：地域研究

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(B)	世界言語社会教育センター	准教授	東城 文柄	エコヘルスの視点からのサルマラリア対策に資するフィールド科学の統合的実践	R2	R5
基盤研究(B)	大学院総合国際学研究院	研究員	高岡 豊	中東の非国家武装主体の越境的活動に関する比較研究	R3	R5
基盤研究(B)	世界言語社会教育センター	教授	萩尾 生	共生社会の実現に向けた社会政策としての多言語政策に関する言語社会学的国際比較研究	R3	R5
基盤研究(B)	大学院国際日本学研究院	教授	友常 勉	社会運動における生存権・生存思想の影響とその射程に関する基礎的研究	R3	R5
基盤研究(B)	大学院総合国際学研究院	教授	日下 渉	東南アジアにおける道徳政治の光と影——新興中間層の政治意識と自由民主主義の動揺	R3	R6
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	准教授	小倉 智史	ヒマラヤ西部におけるチベット系ムスリムの総合的研究	R4	R7
基盤研究(B)	大学院総合国際学研究院	教授	栗屋 利江	「感情」の視角から南アジア研究を再考する	R4	R7
基盤研究(C)	世界言語社会教育センター	准教授	三代川 寛子	コプト正教会のアフリカ宣教活動とその影響についての総合的研究	R3	R7
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	教授	宮田 敏之	タイ農協の農業関連事業改革とその課題：タイ東北部・香り米生産地域の農協経営戦略	R3	R5
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	教授	左右田 直樹	政治変動期の立憲君主制と民主主義—マレーシア国王の政治権力をめぐる考察	R5	R7
若手研究	世界言語社会教育センター	講師	片岡 真輝	集合的記憶がフィジーの民族関係に及ぼす影響についての研究	R2	R5
若手研究	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	川添 達朗	南九州における関係人口創出のインテンシティと生物多様性の関連	R4	R6
若手研究	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	臼杵 悠	中東非産油国における親族間送金・経済格差に関する総合的研究：ヨルダンを事例に	R5	R7
若手研究	世界言語社会教育センター	講師	小田 なら	ベトナムの「医士」—近代医療の制度拡充における専門職の歴史的研究	R5	R9

●分野横断：その他

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	星 泉	フィールドデータと文献資料をつなぐ「チベット語民俗語彙＝用例データベース」の構築	R2	R6
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	教授	金 富子	朝鮮半島の植民地遊廓の形成・展開・変容～解放後韓国への連続／非連続に注目して～	R2	R5

○分類方法

新学術領域研究（研究領域提案型）、学術変革領域研究(A)はそのまま分類した。

それ以外の研究種目は、科学研究費助成事業「審査区分表」より引用し、中区分を軸に分類を行い、件数が多い場合は小区分、さらに多い場合は内容より判断し地域に細分化して分類を行った。

- ・基盤 S：審査区分が大区分のため、内容より判断し中区分に細分化
- ・基盤 A、挑戦的研究（開拓・萌芽）：審査区分が中区分のため、そのまま分類
- ・基盤 B,C、若手研究：審査区分が小区分のため、審査区分表に基づき中区分に振り直し
- ・その他の研究種目：審査区分や内容により中区分に分類

3-2 受託研究・共同研究・受託事業

※国立大学の文科系大学について

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による各国立大学の財務関係情報の集計・分析に用いられる特性格別区分（86 大学を学部構成等の特性に応じて①旧帝国大学、②附属病院を有する総合大学、③附属病院を有しない総合大学、④理工系大学、⑤文科系大学、⑥医科系大学、⑦教育系大学、⑧大学院大学の8 区分に分類）を基に、⑤文科系大学の5 大学間で比較を行う。

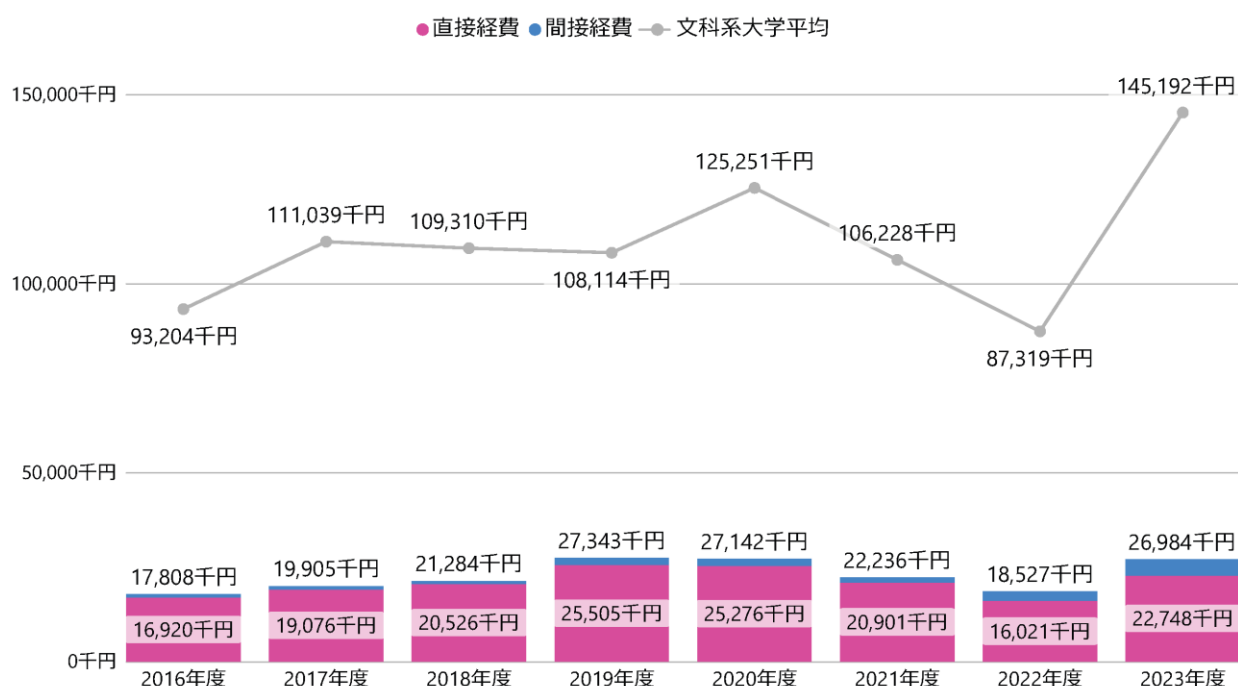
【⑤文科系大学 5 大学】小樽商科大学、東京外国語大学、東京藝術大学、一橋大学、滋賀大学

3-2-1 受託研究

受託研究とは、国立大学法人等において外部からの委託を受けて法人の業務として行う研究で、これに要する経費を原則として委託者が負担するものである。国立大学法人等は、契約に基づき当該研究の成果を委託者に報告する等の義務を負う。

（「国立大学法人会計基準」及び「国立大学法人会計基準注解」に関する実務指針（令和6年6月13日最終改訂）より）

（1） 受入金額の推移



各大学 財務諸表 2016 年度～2023 年度をもとに作成

単位：千円

項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
直接経費	16,920	19,076	20,526	25,505	25,276	20,901	16,021	22,748
間接経費	888	829	758	1,838	1,866	1,335	2,506	4,236
合計	17,808	19,905	21,284	27,343	27,142	22,236	18,527	26,984
文科系大学平均	93,204	111,039	109,310	108,114	125,251	106,228	87,319	145,192

(2) 2023 年度 受託研究の内訳

機関	研究テーマ
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構	グローバル地域研究推進事業
国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構	2023年度地球観測衛星データの社会科学評価のためのデータセット整備研究
独立行政法人 日本学術振興会	課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業
民間企業	社会人向け英語スピーキングアセスメントの開発 ※2023.8.31終了

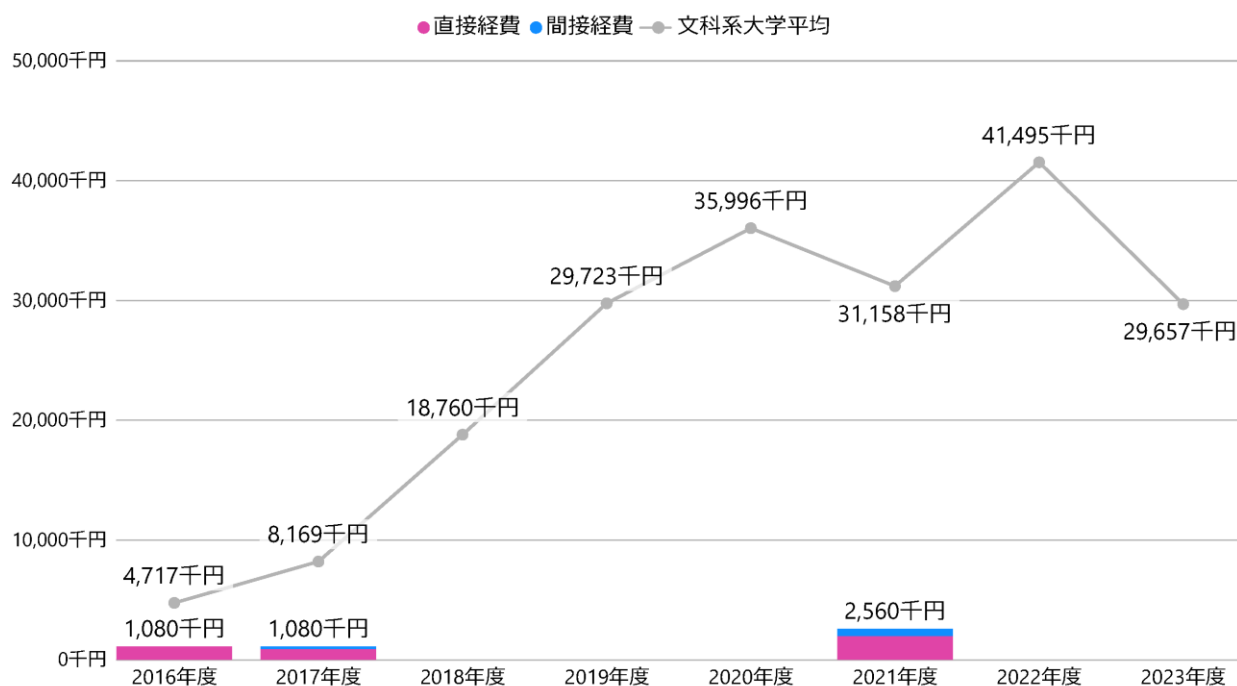
3-2-2 共同研究

共同研究とは、

- ①国立大学法人等において、民間等外部の機関から研究者及び研究経費等を受け入れて、当該法人の教員が民間等外部の機関の研究者と共通の課題について共同して行う研究
 - ②国立大学法人等及び民間等外部の機関において共通の課題について分担して行う研究で、当該法人において、民間等外部の機関から研究者及び研究経費等、又は研究経費等を受け入れるもの
- のことである。

（「国立大学法人会計基準」及び「国立大学法人会計基準注解」に関する実務指針（令和6年6月13日最終改訂）より）

（１） 受入金額の推移



各大学 財務諸表 2016 年度～2023 年度をもとに作成

単位：千円

項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
直接経費	1,080	864	0	0	0	1,969	0	0
間接経費	0	216	0	0	0	591	0	0
合計	1,080	1,080	0	0	0	2,560	0	0
文科系大学平均	4,717	8,169	18,760	29,723	35,996	31,158	41,495	29,657

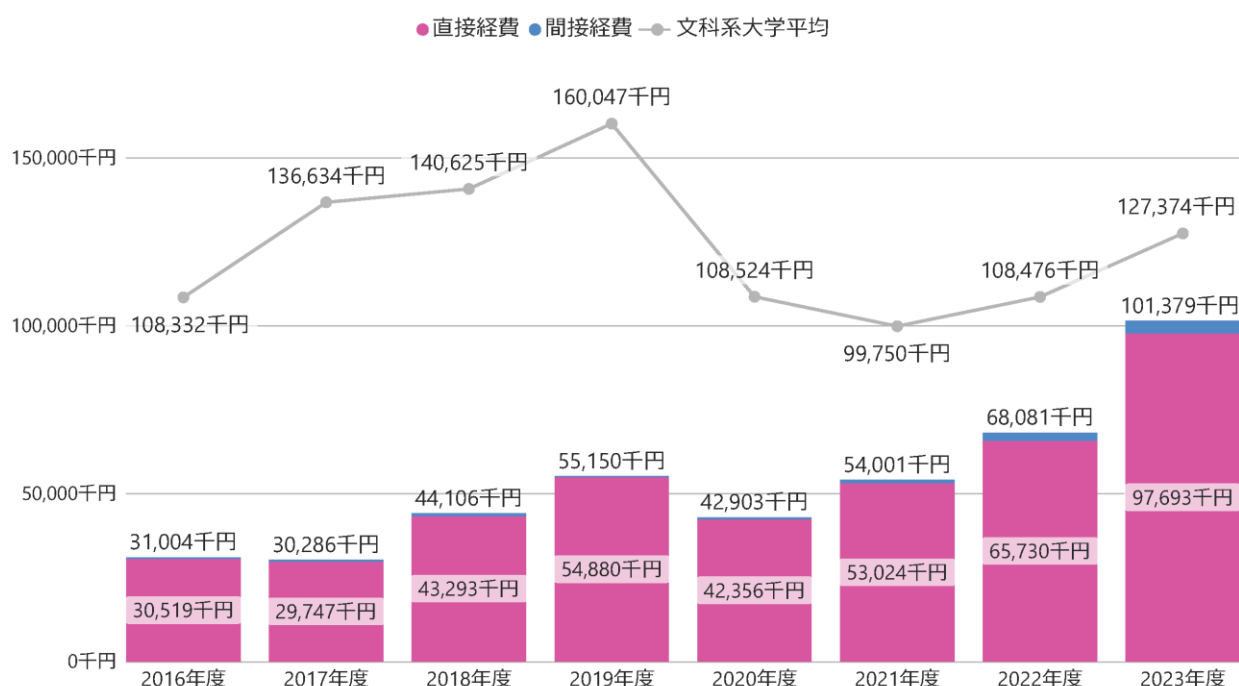
(2) 2023 年度 共同研究の内訳

機関	研究テーマ
国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構	複数の節足動物媒介熱帯感染症の流行分布予測のための衛星データ活用に関する研究

3-2-3 受託事業

受託事業とは、国立大学法人等において外部からの委託を受けて法人の業務として行う諸活動のうち、受託研究を除くものであり、これに要する経費を原則として委託者が負担するもののことである。国立大学法人等は、契約に基づき当該業務の成果を委託者に報告する等の義務を負う。（「国立大学法人会計基準」及び「国立大学法人会計基準注解」に関する実務指針（令和6年6月13日最終改訂）より）

（1） 受入金額の推移



各大学 財務諸表 2016 年度～2023 年度をもとに作成

単位：千円

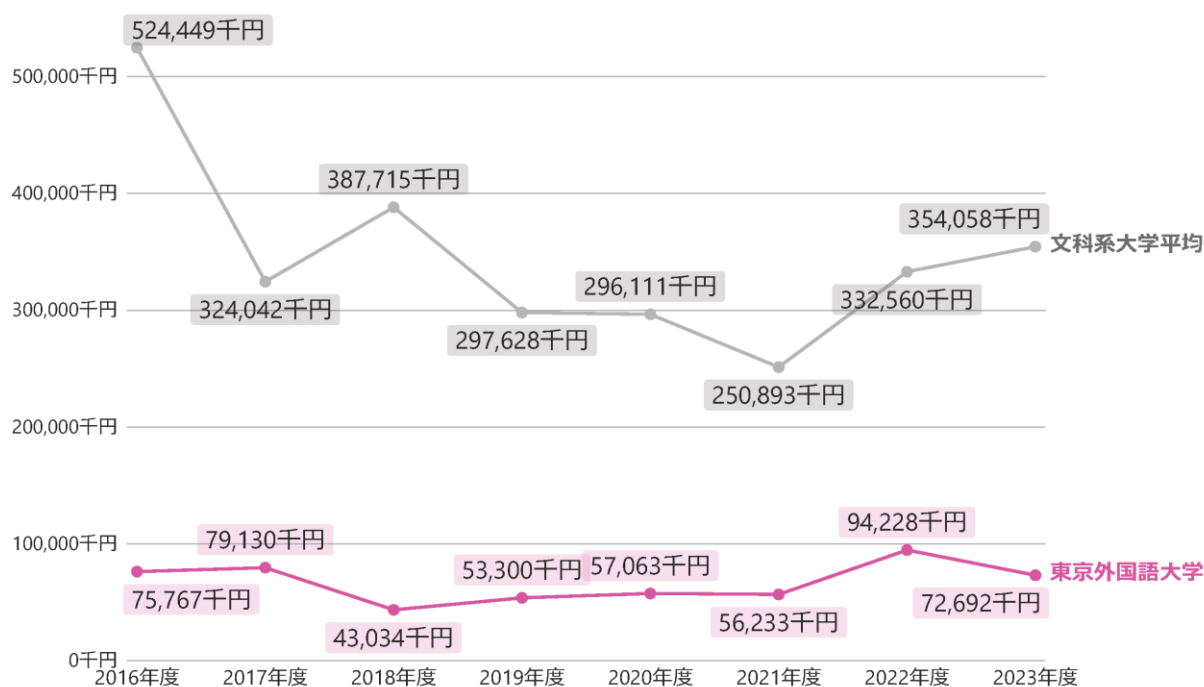
項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
直接経費	30,519	29,747	43,293	54,880	42,356	53,024	65,730	97,693
間接経費	485	539	813	270	547	977	2,351	3,686
合計	31,004	30,286	44,106	55,150	42,903	54,001	68,081	101,379
文科系大学平均	108,332	136,634	140,625	160,047	108,524	99,750	108,476	127,374

3-3 寄附金

※国立大学の文科系大学について 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による各国立大学の財務関係情報の集計・分析に用いられる特性格区分（86 大学を学部構成等の特性に応じて①旧帝国大学、②附属病院を有する総合大学、③附属病院を有しない総合大学、④理工系大学、⑤文科系大学、⑥医科系大学、⑦教育系大学、⑧大学院大学の8 区分に分類）を基に、⑤ 文科系大学の5 大学間で比較を行う。

【⑤文科系大学 5 大学】小樽商科大学、東京外国語大学、東京藝術大学、一橋大学、滋賀大学

（1） 受入金額の推移



各大学 財務諸表 2016 年度～2023 年度をもとに作成

項目名／年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
▲東京外国語大学	75,767千円	79,130千円	43,034千円	53,300千円	57,063千円	56,233千円	94,228千円	72,692千円
文科系大学平均	524,449千円	324,042千円	387,715千円	297,628千円	296,111千円	250,893千円	332,560千円	354,058千円

第4章 研究業績一覧

4-1 研究業績数の推移

学 系	研究業績	2021 年度	2022 年度	2023 年度
人文科学系	査読付き論文	36	17	24
	学術図書	22	13	28
総合文系	査読付き論文	84	109	100
	学術図書	52	38	39
その他	査読付き論文	2	1	0
	学術図書	0	0	0

※人文科学系＝アジア・アフリカ言語文化研究所、総合文系＝大学院総合国際学研究院、大学院国際日本学研究院、世界言語社会教育センター。

※研究業績については、国立大学法人運営費交付金「成果を中心とする実績状況に基づく配分」の定義に基づく。

※「査読付き論文」については、以下により集計。

- A) 当該学系に所属する常勤教員が単独で書いた論文は「単著の論文」とし1編の論文を「1」と集計。
- B) 「単著の論文」以外については、複数の著者の中に当該学系に所属する常勤教員が著者として含まれている論文を「共著の論文」とし、1編の論文について学系ごとに「1」を上限として集計。
- C) 「査読付き論文」の範囲は、査読を受けて「学術論文誌」あるいは「国際会議会議録（プロシーディングス）」に掲載された論文とし、論文掲載時の年度でカウントする。なお、論文は原著論文のみとし、総説論文や症例報告は含まない。

※「学術図書」については、以下により集計。

- A) 単独の著書の場合、1冊を「1」と集計。
- B) 複数名による著書（共同著書）の場合、編集者の有無に応じて、以下により集計。
 - 1) 編集者がいない共同著書
各学系ごとに「1」を上限として学系別に集計。
 - 2) 編集者がいる共同著書
当該学系に所属する常勤教員が「編集者」となっている場合のみ集計。
- C) 複数名による編集（共同編集）の場合著書1冊について各学系ごとに「1」を上限として集計。
- D) A)～C)の集計方法で算出した数値の総数を記載。

2023 年度 研究業績一覧

※国立大学法人運営費交付金「成果を中心とする実績状況に基づく配分」の研究業績数の定義に基づく研究業績のみを掲載。

4－2 大学院総合国際学研究院

4－2－1 査読論文等

No.	教員名	査読論文タイトル	誌名	巻	号	開始 ページ	終了 ページ
1	Ariane Macalinga BORLONGAN	Migration linguistics: A synopsis	AILA Review	36	1	38	63
2	五十嵐 孔一	研究ノート『우리말본』の「씨갈」について(3)	朝鮮学報	262		21	64
3	五十嵐 孔一	日本の韓国語教育における品詞と活用	東京外国語大学論集		106	1	19
4	伊東 剛史	ひらかれた感情史のために	現代思想	51	15	26	35
5	伊東 剛史	翻案される動物史――なぜ、ミカドキジはミカドキジと名づけられたのか？	志村真幸（編）『動物たちの日本近代――ひとびとはその死と痛みにかに向き合ってきたのか』ナカニシヤ出版				
6	上田 広美	クメール語の時の表現 - 「いつも」を表す場合	慶應義塾大学言語文化研究所紀要		55	179	197
7	内原 洋人	Special issues: Tlapanec (Mè'pàà) of la Ciénega de Sauce, Guerrero.	Journal of the Institute of Language Research	27		825	903
8	内山 直子	The (Possible) End of the Expansion Boom of the Japanese Automobile Industry in Mexico, and the COVID-19 Pandemic	México y la Cuenca del Pacífico		36	87	117
9	小田原 琳	「裁判官を裁く 一九七〇年代イタリアにおけるフェミニズムの裁判実践」	『現代思想』	51	9	72	80
10	小田原 琳	ジェンダー・歴史・暴力――「家事労働」を通して――	歴史評論		887	5	14
11	小野寺 拓也	ジェンダーについて（私が）語ることの困難さと可能性	歴史学研究		1044	2	6
12	久米 順子	Medieval European Art History in Japan	Imago Temporis: Medium Aevum	17		61	77
13	久米 順子	19世紀スペインにおけるレオン大聖堂：「大修復」工事をめぐって	東京外国語大学論集	107		21	41

No.	教員名	査読論文タイトル	誌名	巻	号	開始 ページ	終了 ページ
14	久米 順子	スペインのイメージ 版画を通じて写し伝わるすがた (作品解説翻訳)	スペインのイメージ 版画を通じて写し伝わるすがた				
15	久米 順子	新刊紹介 J. Oliveira Caetano, S. Macias (eds.), Guerreiros e martires a Cristandade e o Islao na formacao de Portugal	西洋中世研究		15	198	199
16	久米 順子	新刊紹介 Morais Moran, Jose Alberto, Teijeira Pablos, Maria Dolores (coords.), Academia, educacion e innovacion en la historia del arte medieval	西洋中世研究		15	196	197
17	倉田 明子	香港・台湾の来し方と〈私〉たちの行く末	社会システム研究	47		177	215
18	小久保 真理 江	レーダ・ラファネッリの『社会素描短編 (Bozzetti sociali)』におけるジェンダーと階級	クアドランテ	26		101	127
19	佐々木 あや 乃	ハーフェズ詩注解(15)―神秘主義用語としての「ヒ ジャーブ」に着目して	東京外国語大学論集		106	105	120
20	佐野 洋	ビジネス文書の書き方読本 一産業日本語 研究会 ライ ティング分科会編について	Japio YEAR BOOK 2023			272	277
21	鈴木 玲子	ラオ語のゼロ主語について	慶應義塾大学言語文化研究所紀要		55	65	88
22	芹生 尚子	啓蒙の世紀と軍事改革―想像/創造された兵士たち	「身分」を交差させる―日本とフランスの近世			327	348
23	芹生 尚子	Invitation au voyage sur les champs de bataille perdus de la Seconde Guerre mondiale. Réflexions sur le Retour à l'île de Mindoro d'Ôoka Shôhei, ancien soldat japonais	Après la bataille : Mémoire et usages des champs de bataille, du XVIIe siècle à nos jours			335	354
24	武内 進一	急成長のアフリカが求める国際関係―平和への鍵握るグ ローバル・サウス	中央公論	137	9	58	65
25	武田 千香	「コンセイサオン・エヴァリストの文学―『エスクレ ヴィヴェンシア』と『ボンシア・ヴィヴェンシオ』」	総合文化研究			55	77
26	田島 充士	異質な視点を持つ他者との「対話」と 同質な視点を持つ仲間との 「会話」：バフチンの対話理論からみた対話教育の展開可能性 日本 教育心理学会2022年度公開シンポジウム『異質な視点を持つ他者との 対話を実現する授業：withコロナ時代における小学校教育の現状 と発展可能性（企画：田島充士・河村茂雄）』報告論文	教育心理学年報	62		306	310
27	出町 一恵	"Macroeconomic Imbalance, External Debt, and Financial System in Laos" (With Fumiharu Mieno)	#I Asian Economic Policy Review#IR	19	2	295	318
28	投野 由紀夫	Unlocking the Complexity of English Phrasal Verbs and Polysemes: An Analysis of Semantic Relations Using A-Level Vocabulary Items	Proceedings of the 4th Conference on Language, Data and Knowledge			566	578
29	投野 由紀夫	Toward multilingual language assessment: Adapting CEFR-J Can Do Tests	Conference Proceedings of the ALTE 8th International Conference, Madrid			204	208
30	投野 由紀夫	Developing "Can do" descriptors for L2 dictionary use: A preliminary version	Asialex 2023 Proceedings			103	113
31	投野 由紀夫	Research into dictionary use in an era of e- lexicography	Asialex 2023 Proceedings			28	33

No.	教員名	査読論文タイトル	誌名	巻	号	開始 ページ	終了 ページ
32	中川 裕	Towards a phonological typology of the Kalahari Basin Area languages	Linguistic Typology				
33	野平 宗弘	「ハン・マック・トゥーの形而上夜、脱魂と血の詩作」	『総合文化研究』		27	22	40
34	野元 裕樹	類似言語におけるChatGPT使用にまつわる諸問題：マレー語とインドネシア語の事例	自然言語処理	31		294	299
35	野元 裕樹	Issues surrounding the use of ChatGPT in similar languages: The case of Malay and Indonesian	Proceedings of the 13th International Joint Conference on Natural Language Processing and the 3rd Conference of the Asia-Pacific Chapter of the Association for Computational Linguistics (Volume 2: Short Papers)			76	82
36	野元 裕樹	Honorific titles are D	Proceedings of the Linguistic Society of America	8	1	5523	5523
37	橋本 雄一	(短文) 自分が今日ゆく道の上の岩石を見るべく立ち止まれ	peria 2023年春号 特集「ジェンダーから聞こえる世界」		通算 15	12	13
38	藤縄 康弘	Von der Auxiliarselektion zur Aktionsart: Eine Diskussion anhand der Lesarten von freien Dativem bei Antikausativa und Unakkusativa im Deutschen (jointly worked)	#ILinguisten-Seminar: Forum japanisch-germanistischer Sprachforschung#IR	6		82	99
39	松隈 潤	EU法の現代的課題～公共圏の観点から	国際関係論叢	12	1	1	17
40	箕浦 信勝	On the case marking and the alignment of ditransitive clauses in Malagasy	Area and Culture Studies		106	59	84
41	望月 圭子	Word Order Typology and the Acquisition of Chinese "Verb +Resultative" Compound Verbs: Insights from Brain Science and Learner Corpora	Learner Corpora: Construction and Explorations in Chinese and Related Languages			319	333
42	望月 圭子	The Acquisition of Aspect in Chinese based on Learners' L1 Typology: An analysis based on the TUFs co-referential learner corpora of Chinese and Japanese	Springer: Learner Corpora: Construction and Explorations in Chinese and Related Languages			229	256
43	望月 源	日本語テレビ字幕放送データからの言語データ抽出と特徴の分析	東京外国語大学論集		106	75	94
44	森田 耕司	ポーランド語のアスペクト体系から見た日本語のテイル形	Practicing Japan. ポズナン＆クラクフ日本学専攻科設立35周年記念学会			101	110
45	八木 久美子	アラブ世界における「市民国家」論のなかのイスラーム「マダニーヤ」の意味を読み解く	東京外国語大学論集		106	125	140
46	山田 洋平	格接辞の付された形式から見るモンゴル語の「形容詞」の名詞的用法	語学研究所論集		28	1	28
47	山内 由理子	Memories, relationships and identity: food-related narratives and memory among Japanese descendants in Broome, Western Australia	Food, Culture & Society				
48	吉崎 知典	軍事だけではないNATOの価値	VOICE				
49	若松 邦弘	農村の不満と排外主義の政治－イギリスにおける展開	『国際関係論叢』	12	2	36	80

4-2-2 書籍

No.	教員名	担当区分	書籍タイトル	出版社・発行元
1	青山 弘之	共著	『西アジアの歴史』	放送大学
2	荒原 邦博	単訳	ここにあることの輝き——パウラ・M・ベッカーの生涯	東京外国語大学出版会
3	伊東 剛史	共編者(共編著者)	共感の共同体	平凡社
4	上田 広美	共編者(共編著者)	カンボジアを知るための60章 第3版	明石書店
5	大石 高典	分担執筆	ガーナ流 家族のつくり方——世話する・される者たちの生活誌	東京外国語大学出版会
6	大石 高典	共著	学部生の安全なアフリカ留学に向けて	東京外国語大学「大学の世界展開力強化事業(アフリカ)」
7	岡田 知子	共編者(共編著者)	カンボジアを知るための60章【第3版】	明石書店
8	岡田 知子	分担執筆	現代カンボジア短編集2	大同生命国際文化基金
9	小野寺 拓也	共編者(共編著者)	〈悪の凡庸さ〉を問い直す	大月書店
10	小野寺 拓也	共著	検証 ナチスは「良いこと」もしたのか？	岩波書店
11	Kosit Tiptiempong	単著	オールカラー 超入門! 書いて覚えるタイ語ドリル	ナツメ社
12	斎藤 弘子	共編者(共編著者)	ライトハウス英和辞典第7版	研究社
13	左右田 直規	共著	『マレーシアを知るための58章』	明石書店
14	左右田 直規	共著	『アジア人物史11 世界戦争の惨禍を超えて』	集英社
15	巽 由樹子	単著	ミコラ・サモーキシュ 『ウクライナの装飾文様』	東京外国語大学出版会
16	千葉 敏之	共著	歴史の転換期5 1348年気候不順と生存危機	山川出版社

No.	教員名	担当区分	書籍タイトル	出版社・発行元
17	中山 智香子	単著	大人のためのお金学	NHK出版
18	中山 智香子	単著	The Routledge Handbook on Karl Polanyi	Routledge
19	西岡 あかね	単訳	それぞれの戦い	東京外国語大学出版会
20	野平 宗弘	分担執筆	Reading South Vietnam's Writers : The Reception of Western Thought in Journalism and Literature	Springer
21	野元 裕樹	共編者(共編著者)	Language Contact between Malay and Indigenous Languages	Universitas Katolik Indonesia Atma Jaya and Tokyo University of Foreign Studies
22	野元 裕樹	共編者(共編著者)	Discourse Particles in Asian Languages, Volume II: Southeast Asia	Routledge
23	野元 裕樹	共編者(共編著者)	Discourse Particles in Asian Languages, Volume I: East Asia	Routledge
24	前田 和泉	共著	「NHKラジオ まいにちロシア語」4月号	NHK出版
25	山口 裕之	単著	映画に学ぶドイツ語	教育評論社
26	米谷 匡史	分担執筆	アジア人物史 第11巻 世界戦争の惨禍を越えて（共著）	集英社

4-3 大学院国際日本学研究院

4-3-1 査読論文等

No.	教員名	査読論文タイトル	誌名	巻	号	開始 ページ	終了 ページ
1	海野 多枝	Reconceptualising the silent period: Stories of Japanese students studying abroad	Journal of Silence Studies in Education	2	2	68	81
2	工藤 嘉名子	現職者のキャリア形成における日本語教育リカレントコースの意義と課題ー修了生を対象とした追跡調査をもとにー	東京外国語大学国際日本学研究		4	138	155
3	菅長 理恵	季語と想像力ー呼び覚ますものを求めてー	樹間爽風		3	62	66
4	鈴木 智美	学習者の語・表現の習熟に焦点を当てた日本語教育	日本語習熟論研究		1	34	48
5	鈴木 智美	「V1V2型複合名詞」に対応する動詞と「V1V2+する」サ変動詞の分布・ふるまいの違いを探るー「書き込む」と「書き込みする」はどう違うのかー	認知言語学会論集	24		24	35
6	鈴木 智美	日本語例文バンク (Jreibun) プロジェクト中間報告ー作成された全例文を使用語彙・文パターンの観点から見るー	東京外国語大学国際日本学研究		4	156	180
7	鈴木 美加	即興ミニ漫才づくりとネタに見られる特徴：学部言語科目における漫才ワークショップの可能性 (研究ノート)	日本語・日本学研究	14		107	120
8	鈴木 美加	「日本語中級文型を使った上級レベル学習者の短文作成練習とフィードバック：複文・文脈処理をより円滑に行う取り組みとして」 (研究ノート)	『東京外国語大学国際日本学研究』		4	127	137
9	伊達 宏子	上級日本語学習者を対象とした「対話型短歌鑑賞」授業の実践	東京外国語大学論集		105	1	26
10	伊達 宏子	ビルマ語対話に見られる声調のバリエーションー語学教材の対話文の分析を通して	2023年度第37回日本音声学会全国大会予稿集			202	207
11	谷口 龍子	コロナ禍における首相記者会見演説の批判的談話研究ー人称表現と発話の機能との関係を中心にー	Practicing Japan. 35 Years of Japanese Studies in Poznań and Kraków / ポズナン & クラクフ日本学専攻科設立 35周年記念学会			299	310
12	友常 勉	研究ノート 大紀町の部落史について	解放研究		34	184	194
13	友常 勉	平田篤胤のノエマ-ノエシスとハイパー国学	現代思想	51	16	275	284
14	友常 勉	Hanga and Manga: The Aesthetic Revolution in the Post War Japanese Popular Culture	INContext: Translation and Interculturalism	3	1	99	123
15	友常 勉	部落解放運動と〈人権〉	日本史研究		729	18	32
16	友常 勉	ユウラシアのオオカミー世界認識と〈反日〉の現在	福音と世界	78	9	18	23
17	中井 陽子	接触場面のナラティブにおける母語話者の調整行動ー中国人日本語中級学習者との協働構築に向けてー	国立国語研究所論集	25		35	58

No.	教員名	査読論文タイトル	誌名	巻	号	開始 ページ	終了 ページ
18	中井 陽子	留学生のキャリア形成支援の現状と展望—自身で成長する核を作る—	東京外国語大学論集		106	137	151
19	中井 陽子	オンライン日中交流会を通じた日本側学生の学び—日本語教育人材の養成・研修の観点から—	東京外国語大学国際日本学研究				
20	西原 大輔	続続・石垣りん年譜——石垣りん自身の著作を参考にして（完）——	『国語国文論集』		54	21	31
21	花園 悟	テハ条件+評価的用言形式について—「しなくては/しては ならない/いけない」の文法化—	日本エドワード・サビア協会研究年報		37	131	140
22	Holca Irina	共産主義政権下のルーマニアにおける日本詩歌の翻訳アンソロジー — 時空間を超えた共同制作の創造性と破壊性	日本文学		72		
23	幸松 英恵	ノダ文の通時的研究 — 「事情を表さない用法」を中心に—	国際日本学研究		4	92	110
24	林 俊成	L2読解におけるAI自動要約文がもたらす効果に関する研究—アイデアユニット（idea unit）を用いた分析—	2023年日本文知国際シンポジウム				
25	林 俊成	L2読解におけるAI自動要約文および学習者の再生内容自動評価に関する研究 —Sentence-BERTとBERTScoreを用いた分析—	2023年日本文知国際シンポジウム				
26	林 俊成	個別的課題解決型学習としての遠隔日本語教育実習を通じた実習生の学び —専門性としてのTPACKと自己教育力の観点から—	2023年日本文知国際シンポジウム			94	101

4－3－2 書籍

No.	教員名	担当区分	書籍タイトル	出版社・発行元
1	鈴木 智美	共編者(共編著者)	日本語複合動詞活用辞典	研究社
2	伊達 宏子	共編者(共編著者)	日本語の会話授業のデザインと実践－基礎から発展へ－	スリーエーネットワーク
3	谷口 龍子	共編者(共編著者)	日本語教育複合動詞活用辞典	研究社
4	友常 勉	単著	꿈과 폭탄 - 서벌턴의 표현과 투쟁	제이앤씨(J&C)
5	中井 陽子	共編者(共編著者)	日本語の会話授業のデザインと実践－基礎から発展へ－	スリーエーネットワーク
6	西原 大輔	単著	近代日本文学・美術と植民地	七月堂
7	西原 大輔	単著	一冊で読む 日本の近代詩500	笠間書院

4-4 世界言語社会教育センター

4-4-1 査読論文等

No.	教員名	査読論文タイトル	誌名	巻	号	開始 ページ	終了 ページ
1	足立 享祐	カピーラン（訳・解説）	ヒンディー文学	8		4	27
2	足立 享祐	Samānatā/Viśamatā kendrita Bhāṣā Śikṣā : Hindī aura Jāpānī kī Dhvanyātmaka Viśeṣatāom kā Adhyayana	Proceedings of the International Hindi Conference, 3-4 Feb. 2024, Tokyo, Japan			7	10
3	片岡 真輝	Reconceptualisation of Girit Memory: Fiji's Response to the Re-evaluation of the Colonial Past	Práticas Da História: Journal on Theory, Historiography and Uses of the Past	15		151	182
4	片岡 真輝	フィジーにおける多人種主義概念の批判的検証：被害者記憶を用いた記憶論的分析	太平洋諸島研究		11	3	17
5	Karolina LEŚNIEWSKA	Wykład językoznawczy na Tokijskim Uniwersytecie Studiów Międzynarodowych	Polska z daleka i bliska. Kulturowe konteksty badań nad językiem i literaturą			89	97
6	川本 智史	オスマン・エルギン著『トルコにおける都市運営の歴史的發展』（2）	クアドランテ	26		233	249
7	菊地 和也	A general impossibility theorem on Pareto efficiency and Bayesian incentive compatibility (link to arXiv)	Social Choice and Welfare	62	4	789	797
8	菊地 和也	The winner-take-all dilemma (open access)	Theoretical Economics	18	3	917	940
9	菊地 和也	Welfare ordering of voting weight allocations (link to arXiv)	Social Choice and Welfare	61	4	801	816
10	小島 祥美	ブラジルルーツの子どものためのポルトガル語教室の意義 一岐阜県可児市にある「サン・ペレレ教室」の事例から	ボランティア学研究		24	67	80
11	嶋原 耕一	質問応答連鎖における第三者の介入引き込みの会話分析 一日本人学生と留学生とのディスカッションデータを対象として一	社会言語科学	26	1	228	243
12	嶋原 耕一	非同調的な行為の前に用いられる「なるほど」	日本語学研究	76		173	188
13	Sunisa WITTAYAPANYANON(SAITO)	タイ語の代名詞代用表現・呼びかけ表現：使用実態と日本でのタイ語教育に関して	東京外国語大学論集		107	65	82
14	Sunisa WITTAYAPANYANON(SAITO)	Corpus Development for Pronoun Substitute and Address Term Study	2023 8th International Conference on Business and Industrial Research (ICBIR)				
15	竹田 恵子	美術教育をめぐるジェンダー/セクシュアリティをめぐる問題提起	季刊セクシュアリティ		112	24	31
16	土田 耕督	和歌における〈言外の情趣〉の多元性―「余情」とその類義語をめぐる―	東京外国語大学 国際日本学研究		4	1	12
17	土田 耕督	「幽玄体」と「心得がたき歌」―正徹の藤原定家評と恋題の詠法に見る〈難解性〉―	東京外国語大学論集		107	83	98

No.	教員名	査読論文タイトル	誌名	巻	号	開始 ページ	終了 ページ
18	東城 文柄	Barriers to the hospital treatment among Bede snake charmers in Bangladesh with special reference to venomous snakebite	PLOS NEGLECTED TROPICAL DISEASES	17	10		
19	土肥 篤	Fenomeni che si registrano solo nelle frasi principali: un approccio cross-linguistico	Actas da I'8avel Colloqui retormanic				
20	萩尾 生	Yaeko Nogami's Travelogue about the Basque Country: Implications for a Transnational Perspective for Basque Studies	Territories: A Trans-Cultural Journal of Regional Studies	3	1		
21	蛭田 圭	The Contested Legacy of Cold War Liberalism	Global Intellectual History				
22	蛭田 圭	Methodology, Comparison and Humanity: A Reply to Ootobe, Futai and Yamaoka	Japanese Journal of Political Science	24	4	438	444
23	蛭田 圭	Fukuzawa, Liberalism, and the Imperial Temptation	Comparative Political Theory	3	2	215	225
24	蛭田 圭	Fukuzawa Yukichi's Liberal Nationalism	American Political Science Review	117	3	940	952
25	山本 恭裕	「日々の仕事」と「簡単な自分史」：カガヤヌ語の談話資料	言語記述論集		15	359	374

4 - 4 - 2 書籍

No.	教員名	担当区分	書籍タイトル	出版社・発行元
1	青井 隼人	分担執筆	しゃべるヒト：ことばの不思議を科学する	文理閣
2	大鳥 由香子	分担執筆	改革が作ったアメリカ 初期アメリカ研究の展開	小鳥遊書房
3	小島 祥美	その他	トランスランゲージング・クラスルームー子どもたちの複数言語を活用した学校教師の実践	明石書店
4	萩尾 生	共編者(共編著者)	萩尾生・吉田浩美編著『現代バスクを知るための60章 [第2版]』	明石書店
5	HUSSEIN Khaldoon	編訳	赤いろうそく	東京外国語大学
6	舩方 周一郎	編集	群馬・ブラジル大統領選挙上映会	東京外国語大学海外事情研究所

4-5 アジア・アフリカ言語文化研究所

4-5-1 査読論文等

No.	教員名	査読論文タイトル	誌名	巻	号	開始 ページ	終了 ページ
1	荒川 慎太郎	西夏文字における「点」の出現環境と機能	言語研究	164		39	66
2	荒川 慎太郎	The Tangut dictionary by E.I. Kychanov and the study of the shapes of the Tangut script	Written Monuments of the Orient	19		63	76
3	太田 信宏	近世南インドのマイスール王国における歴史記述：ふたつの王国史書の紹介と分析	アジア・アフリカ言語文化研究	107		21	50
4	河合 文	社会変化下で繋がりを構築する人々：マレーシア半島部オラン・アスリの事例から」	マレーシア研究	12		129	137
5	神田 惟	イスラーム陶史 愛知県陶磁美術館所蔵の年代入りイラン製青花陶器についての一考察：陶工の語彙・韻文リテラシーと注文主の社会的地位の問題を中心に	鹿島美術研究年報別冊	40		549	556
6	倉部 慶太	Numeral systems in Tibeto-Burman	Linguistic Atlas of Asia and Africa 3			172	176
7	倉部 慶太	Alignment in Tibeto-Burman	Linguistic Atlas of Asia and Africa 3			88	95
8	倉部 慶太	System of 'sibling' terms in Tibeto-Burman	Linguistic Atlas of Asia and Africa 3			28	31
9	呉人 徳司	"Чингис хааны есөн өрлөгтэй өнчин хүгийн сэцэ лсэн шистир"-ын үйсэн дээр бичигдсэн нэгэн эх болон түүний зохиодсон цагийн тухай	Journal of the Chingis Khaan Museum		Tom II	164	181
10	黒木 英充	アレppoの長い19世紀一宗派紛争をめぐる多層構造	歴史学研究		1041	70	80
11	黒沼 太一	The Wādī Sūq landscape at Bāt (Dhahirah Governorate, Oman) and its interregional significance	Proceedings of the Seminar for Arabian Studies	52		205	219
12	黒沼 太一	Iron Age landscape in the Tanuf District, Ad-Dā khliyyah Governorate: A transmountain hypothesis based on surveys and excavations in 2017–2023.	The Journal of Oman Studies	24		97	122
13	児倉 徳和	On the sentence-final clitic =lyaje in Sibe	Proceeding of Seoul International Altaistic Conference				
14	後藤 絵美	クルアーンの翻訳にまつわるリテラシー——「正確さ」と「客観性」から考える	現代宗教2024			271	293
15	後藤 絵美	Translating “Sexual Harassment” in Japan and Egypt: Conception and Perception on the Move	International Quarterly for Asian Studies	54	2	173	190
16	近藤 信彰	A'in-i Akbari as a Tazkira of Poets	Journal of Asian and African Studies, Supplement		3	93	105
17	塩原 朝子	Laiamek, or the Giant: A Folktale in Lole, a Language of Rote Island	アジアとアフリカの言語と言語学		18	117	134

No.	教員名	査読論文タイトル	誌名	巻	号	開始 ページ	終了 ページ
18	塩原 朝子	スンバワ語の他動性	東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』		28	1	14
19	品川 大輔	A sketch of we- in Uru (Bantu E622D)	スワヒリ&アフリカ研究	35		61	76
20	品川 大輔	A micro-parametric survey on typological covariation related to focus marking strategies, based on the Bantu Morphosyntactic Variation database	Linguistique et langues africaines	9	1		
21	野田 仁	1916年前後の中央アジアにおけるムスリム・ネットワーク—新疆への視線	東洋史研究	82	2	308	340
22	星 泉	しかばねと勇者のはるかな旅（訳者解説）	チベットのむかしばなし しかばねの物語				
23	山越 康裕	Presence of the indicative Past Form V-žee in the speech of a Shinekhen Buryat speaker	Proceedings of the 16th Seoul International Altaistic Conference			87	108
24	山越 康裕	A Shinekhen Buryat Text Teekheljeekhen Khubuun (The Boy Called “Teekheljeekhen”)	アジア・アフリカの言語と言語学		18	41	61

4-5-2 書籍

No.	教員名	担当区分	書籍タイトル	出版社・発行元
1	荒川 慎太郎	共著	Śāntideva's Bodhicaryāvatāra in Tangut Translation Volume 1: First Juan (chapters 1-4) with Introduction, Translation from Tangut and Notes	
2	石川 博樹	共編者(共編著者)	論点・東洋史学：一本掌握！横断欧亚非大陸的歴史学 關鍵課題	臺灣商務印書館
3	石川 博樹	監修	黒人の歴史: 30万年の物語	河出書房新社
4	小倉 智史	共編者(共編著者)	Imperial Historiography and the Creation of Persian Scholarship on India: The Ā'in-i Akbarī of Abū al-Faẓl (d. 1602)	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
5	小倉 智史	分担執筆	《史学会シンポジウム叢書》君主号と歴史世界	山川出版社
6	河合 香史	共編者(共編著者)	大型野生動物学と人類学のGPS・生体情報計測研究の 最先端と今後の課題	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
7	河合 香史	共編者(共編著者)	新・方法序説：人類社会の進化に迫る認識と方法	京都大学学術出版会
8	河合 香史	共著	「人新世」時代の文化人類学の挑戦：よみがえる対話 の力	以文社
9	黒木 英充	編集	移民・難民のコネクティビティ	東京大学出版会
10	児倉 徳和	共編者(共編著者)	チュルク語文法の諸相2—情報構造・知識管理—	ユーラシア言語研究コンソーシアム
11	後藤 絵美	共編者(共編著者)	東大塾 現代イスラーム講義	東京大学出版会
12	後藤 絵美	単訳	シェルフ・ライフ——カイロで革新的な書店を愛し育 て、苦悩した記録	G.B.
13	後藤 絵美	共著	憧れの感情史——アジアの近代と〈新しい女性〉	作品社
14	後藤 絵美	共編者(共編著者)	論点・ジェンダー史学	ミネルヴァ書房
15	後藤 絵美	分担執筆	「世界」をどう問うか？：地域・紛争・科学（〈ひ と〉から問うジェンダーの世界史）	大阪大学出版会
16	後藤 絵美	共編者(共編著者)	Beyond Modernity: Critical Perspectives on Islam, Tradition and Power	Rowman & Littlefield Publishers

No.	教員名	担当区分	書籍タイトル	出版社・発行元
17	後藤 絵美	分担執筆	「社会」はどう作られるか? : 家族・制度・文化 (〈ひと〉から問うジェンダーの世界史)	大阪大学出版会
18	後藤 絵美	分担執筆	Knowledge and Power in Muslim Societies: Approaches in Intellectual History	Gerlach Press
19	後藤 絵美	分担執筆	The Cambridge Global History of Fashion	Cambridge University Press
20	品川 大輔	単著	Copperbelt Bemba: A collection of phonetic materials on nominal tone patterns	ILCAA
21	品川 大輔	共著	Copperbelt Bemba: A sketch grammar	ILCAA
22	外川 昌彦	単著	岡倉天心とインドー「アジアは一つ」が生まれるまで	慶応義塾大学出版会
23	床呂 郁哉	編集	トランスカルチャー状況下における顔・身体学の構築 (第七回) (シンポジウム・プロシーディングス)	AA研
24	床呂 郁哉	編集	トランスカルチャー状況下における顔・身体学の構築 (第六回) シンポジウム・プロシーディングス	AA研
25	野田 仁	編集	翻訳される信頼	東京大学出版会
26	星 泉	共編者(共編著者)	『チベット文学と映画制作の現在 SERNYA 別冊: 「チベットのむかしばなし しかばねの物語」特集』	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
27	村津 蘭	共著	世界ぐるぐる怪異紀行: どうして“わからないもの”は こわいの? (14歳の世渡り術)	河出書房新社
28	吉田 ゆか子	共編者(共編著者)	東南アジアで学ぶ文化人類学	昭和堂

(本件担当)

東京外国語大学研究協力課研究企画係

Tel: 042-330-5592

Mail: kenkyu-soumu@tufs.ac.jp